

北海道志

八

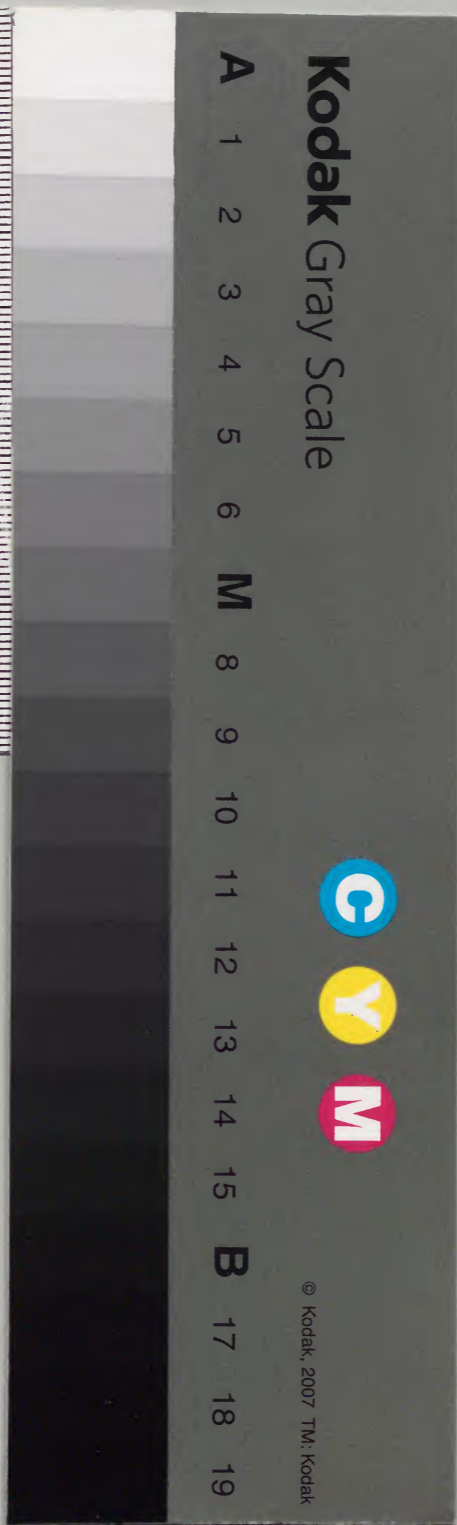
卷十三
風俗
産業上

第 一 類	第 一 門	第 一 號
-------------	-------------	-------------

和一八二五號

庫	文	閣	内
二 七 一 函	二 五 四 冊	一 四 〇 〇 四 號	和 書 類

内閣文庫	
番號	和一 14004
冊數	25 (8)
函號	271 297



北海道志卷之十三

風俗

産業^上

古來蝦夷ノ業トスル所專ラ漁獵ニ在リ鯶鱈ハ之ヲ春ニ取
 リ鱒昆布ハ之ヲ夏ニ取リ鮭ハ之ヲ秋ニ取リ鳥獸ハ之ヲ冬
 ニ取ル卉服ヲ織リ薪ヲ採ル等ハ皆女子ノ事ナリ而テ其獲
 ル所ノ最モ多キハ鯶鱈ヲ以テ第一ト爲ス全島以テ食ニ供
 シ其餘販鬻スル者萬石ヲ以テ數フ其他海産ノ利徧ク海内
 ニ布キ遠ク異域ニ波及スルニ至ル故ヲ以テ土人耕耘セス
 シテ衣食足ル安永天明ノ間ニ至リ始テ土産ヲ輸出シ爾來
 年ヲ逐テ産出シ安政以來ニ至リテハ殆ト幾倍ヲ増加セリ
 盛ナリト云ヘシ又古來輕物ト稱スルアリ緞錦青玉

ニ物ハ山
丹ヨリ來



熊皮 上品一枚米一斗 熊膽 上品一個米三斗五升以下各差アリ 海獺海豹膾臍

鷲尾鷹羽ノ類亦以テ民生ヲ資クルニ足ル明治以降諸般工業新ニ興リ牧畜養蠶釀造製革女紅工作等ノ如キ在ラサル所ナシ衣食ノ源益富饒ニシテ民産由テ立テ得タリ故ニ産業ヲ志スハ漁業ヲ以テ先トナシ次ニ諸般ノ事業ニ及フ

漁業 採藻

鮭 一ニ鱈ノ字ヲ書ス邦人從來多ク鮭ヲ用フ今之ニ仍ル ハ方言秋味ト稱ス根室西別川ヲ

以テ上品ト爲ス而テ其捕獲ノ多キハ西部石狩川ヲ以テ第一ト爲ス其他諸川亦在ラサル所ナシ中秋ノ頃網シテ皮ヲ去リ肉ヲ火上ニ薰シ乾シテ腊ト爲シ食ニ供ス之ヲ乾鮭ト稱ス鹽醃シテ寒水ニ浸シ鹽味ヲ節減シ乾シテ烟氣アル所ニ貯フ之ヲ寒鹽引ト稱ス一説鹽ヲ溶解シ鮭ヲ

漬シ曝乾シテ後寒水ニ入レ鹽味ヲ節減ス之ヲ鹽引ト稱ス此松前氏ノ時幕府ニ獻スル所ナリ其他鹽辛楚割荒卷筋子子籠解子切込鹽切鮓脊腸等ノ別アリ其斤量ハ二十尾ヲ以テ一束ト爲シ三百束ヲ百石トス天明ノ頃東西地獲ル所二百萬束ニ下ラス大漁ノ時ハ一日一萬兩ノ收獲アリ故ニ海内漁業ノ盛ヲ擧ル者必ス指テ房州ノ鰯五島ノ鮪當地ノ鮭ニ屈スルハ誣言ニ非ルナリ同時石狩川出ス所ノ者大船千石十二艘ヲ以テ毎歲ノ定額ト爲シ西別川ハ鮭ノ大小ヲ去リ中ナル者ヲ取り一船凡五萬尾ヲ裝スルヲ松前氏ノ定令トス然ルニ之ヲ捕ル僅々五六日ノ間ニ在リト明治十四年全道收獲七萬千五百五十三石八斗九升餘

明治十年開拓使米人雄惠須理以登ヲ聘シ罐詰ノ業ヲ教導セシメ併テ鮭卵人工孳化ヲ傳習セシメ札幌借樂園ニ試験場ヲ設ク當年孳化スル所十ノ二三蓋蟲害等ニ由ル十一年更ニ種鮭ヲ豊平川ニ捕リ再之ヲ試験スルニ孳化スル者十ノ五六後其業漸ク進ミ十三年ニ至リ大ニ繁殖スルヲ得タリ

明治六年十月三日本廳管下豊平發寒琴似篠路ノ諸川從來鮭漁引網ノ禁アリ自今之ヲ許可スヘシ因テ願望者ハ場所並網ノ間數等ヲ詳記シ請願スヘシ但本年ハ無稅來七年ヨリ相當ノ稅ヲ納ルヘシ其川中へ杭木ヲ立テ網ヲ張リ方俗「ウライ」網ト稱スル者ヲ嚴禁ス

明治七年八月二十九日石狩國札幌郡中豊平發寒琴似篠

路諸川鮭引網ヲ用ル者自今豊平川ヲ除クノ外之ヲ禁シ

條例ヲ設ク

第一條 豊平川ト雖モ夜中引網ハ一切禁止シ網ヲ用ルハ「ウライ」網ト稱スル者ハ一切嚴禁ス 第二條 川中へ杭木ヲ立網ヲ張リ方俗所並網ノ間數ヲ記シ其町村戸長ヲ經テ申請シ網ノ大小ニ從ヒ應分ノ稅ヲ納ルヘシ 第四條 此條則ニ違ヒ其禁ヲ犯ス者ハ漁具ヲ沒收シ應分ノ科金ヲ追徵ス犯人ヲ告訴シ疑ナキハ犯人ノ科金ヲ與フヘシ但互ニ相戒メ犯人ヲカラシムルヲ要ス

明治九年二月二十五日根室管下從來西別川水源於テ鮭漁ヲ禁スト雖モ以來十月中ヲ限リ川口ヨリ水源ニ至ル一里以内空隙ノ地ハ漁業ヲ許ス若シ期限ヲ犯ス者ハ獵獲ノ魚ヲ沒シ至當ノ處分ニ及フヘシ

四月十八日根室管下本年告示スル西別川鮭魚漁場藤野喜兵衛ニ貸ス所ヨリ上流千八百間内一人沿川百五十間ヲ限リ之ヲ貸スヘシ仍テ漁業中他ノ漁場へ妨害スルヲ

戒ム

八月二十八日本廳管下鮭漁、デス網ヲ以テ川流ヲ横斷スル者上流ノ營業ヲ妨ケ且ツ魚苗ヲ減耗スルノ害アルヲ以テ之ヲ禁ス根室管下ハニ十日告示ス

八月二十九日根室管下野付根室郡界西別川鮭漁者十五名官ニ假ル所ノ地ヲ收メ更ニ上流下流ノ別ナク間數各三町ニ區畫シテ分撥シ且、デス網ノ禁ヲ設ルヲ以テ漁業十月中ノ期限ヲ解ク

九月八日札幌郡市在區戸長總代ニ論シ豐平川漁業ノ爲メ水中ニ杭ヲ植テ或ハ砂石ヲ堆集シ水利ヲ障碍スルヲ禁ス

九月十三日札幌郡市在區戸長總代ニ論ス豐平川漁業ノ

者砂石ヲ堆メ杭木ヲ植テ水柵ヲ設ケ水利ヲ妨ル等先ニ嚴禁アリト雖モ秋季鮭漁ノ際ハ尙ホ注意シ鑰引ノ外ハ一切許サス假令鑰引ト雖モ前ニ掲ル禁令ヲ犯ス者ハ漁具ヲ沒收シ速ニ官ニ訴ヘシム
十月十日根室管下西別川鮭漁場本年之ヲ十五名ニ付ス今其現状ヲ見ルニ有力ノ者ハ漁網二三統ヲ以テ連換間斷ナシ爲メニ上流ノ者空網ヲ舉ルニ至ル因テ該川ハ一場網一統ヲ用フヘシ
明治十年九月十二日根室管下曩キニ藤野喜兵衛鮭場西別別海兩所引網ニ換ヘテ建網ヲ用フルヲ許ス今更ニ之ヲ停止ス今後右等ハ必ス地名番號ヲ付シテ請願スヘシ十一月一日根室管下鮭場鍵取場ニ於テ留網或ハ追網ヲ

用フルヲ禁ス
明治十一年十二月十七日本廳管下鮭鱒ハ北海道物産ノ最ナル者益其繁殖ニ注意セサルヘカラス然ルニ魚苗生育ノ支川ニ於テ漁獲スル遂ニ其種類ヲ減耗シ繁殖ニ害アリ因テ先札幌郡内ノ川ニ於テ該漁業ヲ爲スヲ禁ス十二月二十七日日本廳管下鮭魚試驗ノ爲メ白金及ヒ銅ノ線輪ヲ尾側ニ付シテ札幌郡豊平川ニ放テリ明年漁獲スル者アラハ速ニ物産局ヘ報スヘシ
明治十二年十月七日本廳管下去歲十二月魚苗繁殖ノ爲メ札幌郡内ノ川ニ於テ鮭鱒漁獲ヲ禁スト雖モ今回鮭鱒等ノ魚卵人工孚化試驗ノ爲メ特ニ吏員ヲ派シ札幌郡豊平琴似等諸川ニ就キ該魚ヲ捕獲セシム但右試驗ハ管内

漁利保護ノ爲メニ外ナラス宜ク一般ノ漁業ト同視スヘカラス
十一月八日本廳管下鮭鱒等ハ從來河海ノ別ナク概シテ海産ト爲シテ收税セリ若シ河川ニ於テ獲ル者ハ海産ニアラスト爲ス勿レ
明治十三年十月六日根室管下古來ノ慣習ニ依リ鱒鮭等各自鹽切ニ製シ輸出スト雖モ僅カニ内國ノ需用ニ止ル仍テ明治十一年中鑑詰所ヲ別海ニ設ケ製法ヲ改良シ廣ク内外國ニ輸出販賣シ將サニ國產ヲ興サントスルニ當リ鱒鮭買收ヲ厭フハ謂レナキノ至ナリ試ニ鹽價ヲ算スル常ニ販賣石數價格十分ノ一ニ居ル
其他漁夫ヲ役スル幾多ノ損益アルハ言ヲ待タス今生

鹽切鮭百石凡千三百圓
右ニ費ス鹽代凡百三十

ヲ一連ト稱シ十連ヲ一束ト稱ス外割二裂モ亦同シ但賣
 買ノ習慣ハ尾數ヲ問ハス二貫目ヲ以テ一束ト爲ス其他
 早割外割皆同シ共ニ四千貫目ヲ百石ト爲ス明和安永ノ
 頃鮮十八束丁錢六百ニ兌フ金一兩錢四貫文其後錢價下低シ文化
 ノ初ニ至リ二束ヲ以テ六百ニ兌フト云天明寛政ノ間松
 前近海鮮來ラス遠ク之ヲ蝦夷地ニ捕ル之ヲ追鮮ト號ス
 其稱今猶ホ存ス捕鮮ノ圖合船一艘正月ヨリ五月ニ至ル
 雇夫一名丁錢十二貫文其優等ナル者ハ十八貫文ヨリ十
 九貫文ニ至ル糧食諸費ハ別ニ給ス若シ六月半ニ至レハ
 備錢ヲ増給ス明治十四年全道收穫五十四萬五千百五十
 五石七升

明治四年三月本廳管下後志國各郡石狩國厚田郡鮮漁業

ノ者荷物賣却セサルノ前傭人へ賃ヲ與ヘス爲メニ紛紜
 ヲ生ス因テ本廳ヨリ金ヲ貸シ荷物販鬻ノ後毎月一分ノ
 息ヲ加ヘ完清セシムヘシ其配賦ハ壽都古宇忍路厚田四
 郡各金千兩積丹美國二郡各金七百兩古平岩内余市三郡
 各金千五百兩小樽高島二郡各金三千五百兩
 明治八年六月二日本廳管下從前鮮漁ハ初漁中漁後漁ノ
 三次ニ捕獲シ悉ク曝干シ検査シテ現品ヲ收稅スルノ順
 序ナリ然ルニ人民ノ不便ノミナラス數多ノ船舶空ク漁
 時ノ終ルヲ待チ商估之ヲ苦シム自今絞粕ノ外初漁ヨリ
 順次検査シ現品ヲ收稅シ荷物輸出ヲ許可シテ遲滯ナカ
 ラシム

鱒漁ハ夏日網シテ之ヲ捕リ鹽鱒飴鱒等ノ別アリ或ハ乾腊

シテ食ニ貯ヘ多クハ煮テ油ヲ絞ル其糟粕ハ培壅ニ宜シ
二十尾ヲ以テ一束ト爲シ六百束ヲ百石ト爲ス但石狩郡ハ
四百束ヲ以

テ百石
ト爲ス明治十四年全道收穫壹萬九千七百五十四石五斗二

升

鱈漁ハ各地在ラサル所ナシ就中利尻ヲ以テ名産ト爲ス干

鱈ハ二貫五百目ヲ以テ一束ト爲シ千六百束ヲ百石トス

鹽鱈ハ二十尾ヲ以テ一束ト爲シ三百束ヲ百石ト爲ス其

他鹽切鹽辛鱈油鱈子鱈胃絞粕等ノ別アリ明治十年初テ

茅部郡ニテ肝油ヲ製ス其品舶來ノ者ニ讓ラスト製造所ノ
下ニ詳ナ

明治十四年全道ノ收穫九千三百三十七石

海鼠鮑ハ夏秋ヲ漁時トス海鼠ハ煎海鼠鮑ハ干鮑ウル漬鹽

辛鹽鮑等ノ別アリ共ニ百六十目ヲ一斤ト爲シ一箇十二

貫目ト爲ス但松前藩ノ時人民ノ販賣ヲ許サス藩自ラ長

崎ニ輸シテ販賣ス開拓使ニ至テ其制ナシ故ニ適宜ニ苞

造ス明治十四年全道收穫海鼠三千百三十石鮑千五百四

十五石

明治十三年九月十一日根室管下從來海鼠ヲ捕ル者爬網

ヲ用フ俗ニ八尺
網ト稱ス其網トナリ皮ヲ著ク可キ者近來鐵鏈ヲ著

ケ以テ海底ヲ牽曳摸索シ岩上ノ海鼠子ヲ摩擦死傷セシ

ム既ニ海外ニテモ此類ヲ以テ牡蠣ヲ害セル例證アリ之

カ爲メ後來該漁ノ衰頽ヲ來タスモ測ラレス仍テ自今其

網八尺ニ鐵鏈及ヒ鐵爪ヲ著ケ海鼠海扇等ヲ捕ルヲ禁ス

鰯ハ二十枚ヲ一把ト爲シ七十五把ヲ一箇ト爲シ四千貫目

ヲ百石ト爲ス明治十四年全道收穫二千三百三十石

手操網鰈、アアラコ、ソイ、鱈、其 漁網大小 釣竿ワヅ 鮪捕筐 海扇引具

鰈鉤鰈ヲ捕ル 鮭引鉤 章魚引鉤 鱈置鉤 鯛鉤 金鱈魚鉤

アブラコ鰈鉤 章魚鉤 鮭鉤 石決明鉤海底ノ石決 ホツ

キ鈺 磯鈺磯邊ノ石決 唐操鈺章魚石決 章魚鈺 海鼠鈺

ヤマテ釣具ナリ鰈魚ニ最宜シ 鯖釣ヤマテ ハナレ鈺ノ類水面ニ浮 鰯車鰯ノ類

魚ハナレ 臘臍ハナレ 烏賊釣具 マリツプ鰯ノ類

鰯ノ類 刺ス

明治三年五月根室地方漁時、コシタ網、サル網ヲ用ルヲ禁ス
九月管内ニ令ス寄鯨アル吏員會同三分一ヲ會所ニ收メテ
、謝勞ト爲シ其餘七分ハ土人三分ハ役宅並移住人ヘ分與
スヘシ

九月管内ニ令ス爾後官漁利ニ關係セス賃作人永住人等協
議勉勵スヘシ若シ漁魚分配及ヒ諸品商業等不正ノ處置
ヲ爲ス者アレハ所在官吏ニ訴フヘシ
十一月二十日幌泉官吏ニ令ス諸產物ハ姑ク函館時價ヲ三
折シテ以テ買收スヘシ但函館時價ハ年々十一月ニ至リ
平均シ其月晦日ヲ以テ金ヲ下付スヘシ又漁具斥賣ヲ請
フ者ハ其物品ニ因リ之ヲ許シ代價上納ハ新品ハ即納古
品ハ三年ニ賦シ賃作ヲ請フ者ハ時宜ヲ計リテ許可スヘ
シ其漁獲スル品ハ鹽切鮭ハ百石金百五十兩鹽切鱈同金
百四十兩絞粕同金百二十兩昆布同金百兩ヲ以テ買收ス
ヘシ但賃作人其郡永住民ノ名ヲ假リ漁獲品ヲ納ルヲ禁
ス

明治四年三月七日根室管下鮎魚叉等ヲ以テ食ニ供スル魚
ヲ捕ルノ外西別川上流ノ漁業ヲ禁ス

明治五年正月山口縣士族國吉眞人父子等結社シ天鹽國增
毛留萌二郡沿海ニ於テ米利堅傳習鯨漁ノ方法ヲ以テ開
業スルヲ許ス

十月鹿兒島縣ヨリ漁夫ヲ傭ヒ函館管下漁夫ニ漁業ヲ傳習
セシメ且其營業ノ途ヲ立テシメン爲メ收獲スル物品ハ
總テ各自適意ニ賣買スルヲ許ス

十二月一日函館管下各村寄鯨アル必ス其管轄廳ニ開報ス
ルヲ規ト爲ス近來其規ニ據ラス私ニ配分ヲ爲ス者アリ
、向後寄鯨又ハ流鯨等ヲ認ルルハ函館近村ハ農政掛其他
各村ハ所在官吏ニ開報シ調査ヲ受クヘシ

明治七年五月二十日沿海諸獵督理ノ方法ヲ定ム曰沿海我
國權ノ及フ所ハ岸頭ヨリ三里以内ト爲ス若シ此内ニ於
テ外國人漁獵スル者アラハ捕拿シテ之ヲ函館ニ押解シ
其國領事ニ付シ至當ノ處分ヲ爲スヘシ若シ其船捕拿ノ
際外國人我命ヲ拒ミ或ハ疎暴ノ舉動ヲ爲スアラハ威力
ヲ以テ從事スヘシ或ハ風浪ニ阻シ薪水竭キテ岸ニ到ル
モ亦知ル可ラス故ニ其情實ヲ熟查シ其詐僞ナキヲ認ハ
外國船困難救助ノ方ニ照シテ措置スヘシ

明治八年三月二十七日根室管下支那交易ノ爲メ左ノ品少
量ヲ精選シテ支廳ニ遞送セシム

干鹽引 一ホツキ貝 此他海
草干魚獸皮類產物多量ノ者

一昆布各種各其名ヲ記載スヘ
一海鼠 一鱗身欠 一鮭

四月十九日本廳管下漁業ハ其場ニ由リ年ニ厚薄アリ季節

ニ隨ヒ初中後ノ不同アルニ依リ時々漁業ノ景況并ニ昆
布生立等ヲ報明セシム

函館管下ハ五月五日根室
管下ハ四月二十日布達ス

九月十八日根室郡内須那波牛以東恩瀾蕩以西俊苦仁臺ノ
間差網、サル網等ノ禁ヲ解ク

明治九年四月十日官令シテ北海道漁業取締規則ヲ定メ該
規則ニ照シ督理セシム

- 一 外國船舶皆日本帝國ノ所轄タル北海道諸國諸島ノ岸上ヨリ彈丸ノ
及達スル地ニ於テ海魚海獸ヲ獵獲スルコトヲ禁ス
- 一 日本海獵督理ノ官員ハ外國船舶ノ禁令ヲ犯サントスルアラハ其所
ヲ却退ス可キヲ令スヘシ但既ニ其犯スラ察スルアラハ其船舶ニ上
リ貨物ヲ検査スヘシ
- 一 外國船舶ノ現ニ禁令ヲ犯シタル者或ハ却退ノ令又ハ貨物ノ検査ヲ
拒ムアラハ日本海獵督理ノ官員其船舶ヲ近傍ノ開港場ニ帶往シ其
國ノ領事ニ保放シ糺問ヲ經テ犯令判然タル者ハ相當ノ罰ニ處スル
コトヲ求ムヘシ

八月二十八日管内ニ令ス全道人民ノ營業ヲ盛大ニシ物産

十ヲ繁殖セシメンカ爲メ各所ノ便益ヲ計リ諸般ノ方法ヲ
設ケ實際勸誘シ歲額稍増加セリ且海産ノ如キハ既ニ三
年間出港免稅ノ特典アリ合計凡ソ三十餘萬圓繼テ東京
大坂ノ產物會所及敦賀兵庫堺那珂撫養下ノ關石卷等ノ
出張ヲ廢シ其歩合收入每歲五萬圓餘ヲ捐テ且新開ノ場
所ハ五年除稅ノ規則ヲ立ツ是皆從來ノ風習ヲ改メ各其
業ニ勵ミ專ラ國益ヲ起サシメンカ爲メナリ然ルニ東西
諸郡ハ猶ホ舊習ヲ存シ賃作ノ古體ヲ改メス却テ永住者
ノ新ニ開業スルヲ阻礙スル等爲メニ海産ノ鴻益ヲ妨ル
少カラス且曩キニテス網ヲ廢棄シ自今根室地方モ此禁
ヲ設ク宜ク一般之ヲ遵守シ舊慣ヲ改メ魚苗減耗ノ弊ヲ
除キ營業ノ新舊ヲ論セス相共ニ協和シテ其業ヲ勵ミ物

産繁殖ノ道ヲ圖ルヘシ
 九月十八日根室支廳厚岸分署ニ令ス魚漁ノ者留網及ヒ魚
 苗ヲ取ル爲メニ魚種ヲ減耗ス曩キニ吏ヲ釧路國川上郡
 西別及ヒ朱灣ニ遣リ從來該所用ル所ノ鮭留網且飯料ノ
 外漁獲スルヲ禁スト雖モ又魚苗土人ト云フヲ取ルヲ禁
 ス

明治十年五月二日根室管下各漁場引網ハ其境内直線ノ海
 面ニ網ヲ施シ魚ヲ獵獲スル者ナリ然ルニ海面ニ境界ナ
 キヲ名トシ網ヲ境外ヘ斜ニシ或ハ隣場線内ノ魚ヲ網羅
 スル等往々アリ今般漁場ヲ更正シ其弊習ヲ嚴禁ス以來
 違犯スルナカルヘシ
 十月五日根室管下川漁ニ引網ヲ施ス者ハ水面ノ七分或ハ

八分ヲ定限トス但大川ハ川ノ央ヲ以テ境トスヘシ
 十二月二十八日根室管下從來差網并サル網小舌網等ハ境
 界ヲ定ム爾後他ノ漁業ニ妨害ナキ海面ハ便宜ノ網ヲ用
 三ルヲ許可ス因テ場所ヲ定テ請願スヘシ
 明治十一年七月根室管下今般函館ヨリ鯉魚ヲ友知沼ニ蓮
 根ヲ根室別沼ニ蝮貝ヲ辨天島東北及ヒ瓣花牟伊海岸ニ
 移ス爾後捕獲スルヲ禁ス
 九月三十日本廳管下漁民從來出産魚粕ノ包裝極メテ麤大
 漕運ニ便ナラス且脫漏ノ憂アリ自今一個ノ量十五貫目
 内外ヲ定度トシ包裝精密ヲ加ヘシムヘシ
 十一月十五日根室管下國後郡出産乾海老ハ清國へ輸出適
 當ノ物品ナルヲ以テ今回價格ノ形况勸商局ヨリ通牒ア

根室支廳ハ十二
 年一月布達ス

リ因テ猶ホ品位ヲ精査改良シ漸ク産出多ク加フヘシ其
 十直ハ其地ノ時價ヲ以テ買收シ清國へ輸出販賣ノ後諸費
 ナ扣除シ過剰金ハ出産人ニ下付スヘシ
 明治十二年一月十三日根室管下免稅ノ海産ト雖モ現品檢
 査未了ノ者ハ一切他ニ輸出スルヲ許サス
 二月二十二日室蘭分署ニ令シテ曩九年四月ニ室蘭港内ニ移ス
 所ノ東京産蛤蜊ノ二種逐年蕃殖ノ景況アルヲ以テ捕獲
 禁ニ注意セシム
 三月十九日函館管下露國薩哈連島へ漁業出稼ヲ願出ル者
 アラハ本貫族籍本人財産ノ厚薄等ヲ査シテ開申スヘシ
 八月十五日函館管下泥引網及ヒ該網ニ類スル小目ノ網ハ
 海底ヲ撈索シ細魚ヲ殘サス魚類生育ノ妨害ヲ爲スニ依

リ自今函館港内外海岸ヨリ凡二里半以内ニ於テ該網ヲ
 用ルヲ禁ス
 九月二十四日根室管下課稅スヘキ海産物官ノ許可ヲ得ス
 シテ營業漁獲スルヲ禁ス
 十一月二十五日根室管下鮭鱒其他凡テ鹽造ノ魚類ニ石灰
 ナ混スルヲ禁ス
 明治十三年五月二十一日函館管下漁業ノ爲メ一時海面ヲ
 借ラント請フ者ハ其場所近傍漁業者等ニ故障ナキモノ
 ハ許可スヘシ十月十八日函館支廳九十三號布達
 八月十八日函館管下曩明治八年ニ渡島國龜田郡峠下村蓴菜沼
 へ放育スル鯉魚ヲ捕獲スルヲ禁ス
 十月五日根室管下曩十一年第二十號ニ花咲郡友知沼内ニ養フ鯉魚

十漸ク長スルヲ以テ爾來官ノ告諭ヲ待タス捕漁及ヒ妨害
 ヲ爲スヲ禁ス
 十一月十二日根室管下海産ヲ買ヒ又ハ物品ト交換シ鹽シ
 テ輸出販賣スル者ハ官ニ告テ現品検査ヲ受ク可キ者ト
 爲ス製造者宜ク疎虞ナカルヘシ
 明治十四年一月三十日函館管下賃作ヲ爲ス者多クハ漁業
 季節ニ臨ミ諸縣ヨリ來テ漁業者ノ雇使ニ應シ給金ヲ前
 十收シテ逃亡シ又ハ詐僞怠慢給金ヲ貪リ破約スル等ノ弊
 風アリ又雇主使役ノ法苛酷ニ過キ或ハ前約給料ヲ不漁
 式ニ托シテ減少シ賃作人ヲ困マシムル等ノ惡習アリ且偶
 々逃亡スル者アルモ其國郡貫址氏名ヲ記セサルヨリ要償
 ノ道ナク非常ノ損害ヲ受クル者少トセス抑此等ノ不幸

損害ヲ生スルハ從來牙人唯其謝金ヲ收メ自己ノ利潤ヲ
 謀リ契約ヲ等閑ニスルノ致ス所ナリ或ハ此弊ヲ顧慮シ
 自カラ各府縣ニ至テ雇入ル、者アレハ之カ爲メ時日ヲ
 費シ營業ヲ妨ケ費用モ亦少カラサルヲ以テ中等以下ノ
 漁業者ニ至テハ其困難ヲ極ムルアリ畢竟各自契約ノ麤
 漏ヨリ自カラ招ク所ニシテ其害漁産ノ收得ニ及フ今ヨ
 リ雇主雇人等ノ便宜ヲ謀リ牙人規則ヲ改定シ従前ノ弊
 習ヲ矯正ス雇主雇人等宜ク目前ノ利ヲ視テ永遠ノ損害
 ヲ招クヲナカルヘシ
 二月十八日根室管下海産干場附帶ノ海面ニ於テ他ノ海産
 ヲ採取セントスル者ハ官ニ請フテ許可ヲ受ケシム
 四月二十八日本廳管下檢印ヲ捺スル魚粕絞筒ヲ擅ニ修理

シ又ハ使用ノ際別ニ物ヲ添ヘ容量ヲ増減スルヲ禁ス

昆布細布

細布モ昆布ノ一種ナリ

其製、胴結昆布、花折昆布、元揃昆布、棹前昆

布、長切昆布、刻昆布等ノ別アリ、東地ハ長切昆布一把四貫

目ヲ合セテ結束シ、大抵八貫目ヲ一駄ト爲シ、五百駄ヲ百

石ト爲ス、唯結束後減量アルヲ以テ、每箇ノ斤量ヲ査シ、四

千貫目ヲ以テ百石ト爲ス、西地ハ元揃昆布二把ヲ合テ結

束シ、或ハ七八貫目或ハ四五貫目ヲ以テ一箇ト爲ス、地ニ

由テ同カラス、但四千貫目ヲ以テ百石ト爲スハ皆同シ

昔時沙流新冠邊海中昆布甚少シ、歳々獲ル所僅ニ五十石

ニ滿タス、函館ノ民山田文右衛門嘗テ沙流海濱ニ抵リ、昆

布ノ瓦缶中ニ生スルヲ見ル始テ、人力以テ繁殖セシム可

キヲ知リ、文久三年二月石ノ大一圍ナルヲ勇拂ヨリ新冠

ニ至ルノ海中ニ投スル、大凡二萬七千個、翌元治元年三月

人ヲシテ水ニ没シテ檢セシムルニ、石多ク沙泥ニ埋没ス

其重疊沙上ニ出ル者ハ、昆布之ニ生ス、其質極テ良シ、因テ

浮標ヲ設ケ、石船ヲ湊合シテ一所ニ投セシム、是歳投スル

所凡五萬個、慶應元年夏二百餘石ヲ獲タリ、其質天然ニ異

ラス、文右衛門五駄ヲ箱館奉行ニ呈ス、奉行之ヲ幕府ニ獻

ス、是歳又投スル五萬餘個、二年亦同シ、收獲三百八十石、三

年投スル七萬餘個、收獲五百六十餘石、明治元年投スル若

干、收獲七百餘石、爾後年々増殖シテ、今ニ到レリ

昆布採收器具

昆布搔マツ 二义棒カホツ 棹 鎌

明治三年七月二日根室地方花咲郡民雨ヲ冒シテ昆布ヲ刈
リ且沙上ニ棄ルヲ禁ス

明治八年三月十五日函館管下昆布ハ當道物産中清國輸出
最大一ノ名品ナリ聞カ如キハ近來製造杜撰且水ニ浸シ
或ハ曝干生疎ニシテ斤量ヲ掠ムルヨリ著岸ノ後過半腐
敗シ又ハ品位ヲ下ス等アリト是レ畢竟無識ノ細民自己
目下ノ小利ヲ貪リ遂ニ全國ノ品評ヲ墜シ名産ノ聲價ヲ
減シ當道至要ノ生業却テ破産ノ基トナル如此ク聲價ヲ
損スル片ハ全國ノ鴻益ニ影響シ各自ノ利益ヲ減却スル
ニ至ルヘシ依テ輸出品ハ自今製造ニ注意精撰シ一束一
函毎ニ木箋ヲ著ケ製造人貫址姓名ヲ記セシム
根室支廳ハ四月十日布

八月二十二日根室管下郡民採獲ノ昆布ハ製法ノ精粗ニ由
テリ價格昂低ヲ生ス仍テ本年ヨリ左ノ方法ニ因リ製造シ
各自異同ナカラシムヘシ

昆布仕立方
一丈ケ四尺ニ伐リ等クシ秤量ヲ八貫目ト定メ結束スヘシ但赤葉並短
尺等ハ結束スヘカラス且砂ヲ除キ濕氣多カラサルヲ要ス
一結立帶昆布十二三本ヲ限リトス兩端三四寸許ヲ殘シ結立ヘシ但帶
昆布ハ幅廣昆布外面ヨリ見ヘサルヲ要ス殊ニ兩端ニケ所ハ成丈ケ
先ニ結ヒ持運ヒニ散亂セサルヲ善トス

明治十年七月四日根室管下當使勸商局ト約シ昆布尺量等
ノ方法ヲ定メ根室厚岸濱中多樂外一島上等長四尺二寸
斤量九貫目結合十三箇所中等長四尺二寸斤量九貫目結
合十一箇所ト爲ス仍テ郡民一般ニ示ス

八月六日根室管下昆布ヲ刈ル者其場所ヲ刈盡サス猥ニ他
境ノ海面ニ入り刈採ルヲ許サス

明治十一年二月二十一日根室管下從來布海苔ヲ刈リ寄昆
 布ヲ拾フヲ以テ業トスル者ハ擅ニ採集スト雖モ自今其
 地名ヲ記シ願書ヲ呈シ許可ノ後著手スヘシ且其採獲曝
 干ノ後報明シ検査ヲ受ケサル者ハ販賣ヲ許サス
 三月二十六日根室管下八年四月十日ニ昆布ハ製造ノ粗惡ヲ戒飭
 ス然ルニ去歲勸商局ヘ付スル厚岸郡濱中ノ昆布ハ其製
 法粗惡本年豫定ノ價格ヲ減縮スルニ至レリ實ニ本道國
 産ノ價格ニ影響ス故ニ該業者務テ製造ノ精良ニ注意ス
 ヘシ且該品收納ノ季節ハ官吏ヲ派シ苟モ製造粗惡アラ
 ハ更ニ製造セシムヘシ
 六月二十一日函館管下昆布ノ萌芽ヲ刈取ルヲ禁ス
 十一月十一日根室管下出産昆布定尺未滿ノ分ハ從前販賣

六ノ途ナク多クハ廢棄ニ付スルノ慣習アリ是レ海産豐饒
 二由ルト雖モ天産ヲ空フスルハ亦謂レナシ因テ勸商局
 ト協議シ左ノ價格ヲ定メテ廣業商會ニ一併買收セシム
 各自採取ノ屑昆布赤葉及ヒ曝乾生疎ノ者ヲ除キ精撰苞
 括シ賣ル所ノ斤量ヲ查シテ開申シ宜ク遺利ナカラシム
 ヘシ

一 花咲郡出産屑昆布長二尺以上百石金二百四十圓但上等品原價四百圓ト見做シ六掛	根室支廳管内屑昆布買入價格
一 同上長一尺以上二尺迄百石金百二十圓但上等品原價四百圓ト見做シ三掛	
一 同上苞括百石金六十圓但同上一五掛	
一 同上長二尺五寸許ヨリ五寸許迄ノ分苞括百石金百圓但同上一五掛	
一 厚岸郡出産屑昆布長二尺以上百石金二百七十圓但上等品原價四百圓ト見做シ六掛	
一 五十圓ト見做シ六掛	
一 同上長一尺以上二尺迄百石金百三十五圓但同上一三掛	
一 同上苞括百石金六十七圓五十錢但同上一五掛	
一 同上長一尺許ヨリ五寸許迄ノ分苞括百石金百十二圓五十錢但同上	

- 二五掛
 - 一 釧路郡出產屑昆布長二尺以上百石金三百十二圓但上等品原價四百八十圓ト見做シ六五掛
 - 一 同上長一尺以上ノ分百石金百六十八圓但同上三五掛
 - 一 同上苞括百石金八十一圓六十錢但同上一七掛
 - 一 同上長二尺許ヨリ五寸許迄百石金百三十四圓四十錢但同上二八掛
- 以上時價ノ昂低ニ因リ原價ニ割掛ヲ爲ス其割合タルヘシ

明治十二年八月根室管下屑昆布ヲ販賣スル去歲許可アルヲ以テ該採製一切函館支廳擔當シ刻ミ昆布ト爲シ窮民子女ノ業ニ充ツ因テ管下人民販賣及蓄積金ノ法ヲ定メ本年ヨリ實施ス屑昆布買上並該金蓄積順序略ス

明治十三年五月二十六日根室管下ハ從前ヨリ屑昆布ヲ拋棄シ函館管下ハ之ヲ刻昆布ニ製ス其利顯然タリ今ヨリ三年間百石金百圓ヲ以テ官ニ買收シ其利ヲ知ラシム

六月十日根室管下地方昆布多キヲ以テ從來短尺屑昆布ノ

如キハ遺テ問ハス是天產ヲ暴殄スルナリ仍テ本年ヨリ現場買收方法ヲ設ケ廢ヲ起シ產ヲ得セシメントス宜ク此意ヲ知悉シ各自勵精多量製出スヘシ

九月十四日本廳管下昆布生立ニ妨害アル雜草ハ勉メテ芟除セサルヘカラス就中方言「ゴム」ト名アル者ハ多ク日高國方面ノ海岸ニ生シ極メテ繁茂シ易ク其害最モ甚シ近來芟除ヲ怠ルハ是徒ニ一日ノ安逸ヲ欲シ永世ノ大利ヲ失フ者ト謂フヘシ若シ今ニシテ之ヲ顧慮セサレハ他日凶歉ノ時ニ臨ミ之ヲ患フルモ何ソ及ン因テ漁戸タル者ハ皆宜ク茲ニ注意シ每歲必ス該草芟除ノ方法ヲ實行シ愈國產ノ興隆ヲ謀ルヘシ

九月十五日根室郡役所厚岸戸長役場へ諭ス管下昆布營業

人明治十一年商務局貸ス所ノ金ニ對スル償還ノ昆布清
 國ニ於テ販賣了リ純益金配賦ノ内營業人ノ請願ニ據リ
 當廳へ受寄シ他日ノ資本ヲ増殖スル規則ヲ設ク規則ハ
 九月二十八日根室管下示ヲ出シテ昆布製法ノ粗惡ヲ戒飭
 ス三十日又諭ス本年六月十日告示スル所アルニ仍リ屑
 昆布買收并該金蓄積ノ順序十二年八月ヲ廢シ左ノ法ニ據リ買
 收シ十四年以下ハ別ニ法ヲ設ク其法屑昆布百石目金六
 十五圓ヲ以テ買收シ石數計算ハ苞括ト結束トヲ問ハス
 毎十貫目ニ就キ砂量砂引ト五百目ヲ減シテ算ス検査ヲ請
 フ者ハ官吏其藏所ニ就テ查シ赤葉腐傷等ヲ混入スルハ
 之ヲ改撰セシメ検査了ルノ後稅庫ニ運搬シテ收憑ヲ領
 セシム其代價ヲ領セントスル者ハ收憑ヲ以テ會計課ニ

赴キ憑ヲ納レ金ヲ領セシム或ハ本人ノ便宜ニヨリ憑ヲ
 戸長役場ニ遞シ郡役所ヲ經テ會計課へ遞シ會計課金ヲ
 括シテ戸長役場へ回送シ各自へ分撥スヘシ
 明治十四年四月二十七日根室管下昆布資本ヲ官ニ借ル者
 ハ地方殖産特殊ノ恩典ニ出ツ宜ク各自立ノ地位ニ至ル
 ヘシ顧フニ其人ノ勉否ニ因リ收獲贏餘不足アリ爲メニ
 償還未納ヲ生シ以テ一般ニ影響ス本年ノ如キハ國庫貸
 出ノ額ヲ減スル已ムヲ得サルニ出ツ因テ一層注意シ相
 當ノ手配ヲ爲スヘシ須ク資金ヲ濫消シ目的ヲ誤ルナク
 各團結シテ協同勞力償還シ了ルヲ要ス

漁場請負 漁場持 海産干場

商估漁場ヲ撲買場所請 負ト云スル其始ヲ詳ニセス蓋シ松前藩ノ時

前地ヲ制スル斜里宗谷北蝦夷ヲ三場所ト稱シ邦君親ヲ治ル所ナリ其他漁獵ノ場區域ヲ立テ臣下ノ采邑ニ充ツ商估其地ヲ撲買シテ稅ヲ納ル其下支配人番人アリテ專ラ現品交易ノ事ヲ管ル支配人番人ノ輩爭テ姦利ヲ爲シ己ノ囊橐ヲ肥シ詐偽瀆慝以テ土人ヲ惑ス土人此ヲ以テ日月ニ彫弊シ皆之ヲ怨望ス寛政文化ノ間幕府東西蝦夷地ヲ措置スルノ時江戸運上請負人ヲ廢シ官吏自ラ之ヲ管シ漁場ニ支配人番人ヲ置ク故ノ如ク唯其交易物品ハ官吏其秤量精粗ヲ點檢シ詐偽不正ノヲ莫ラシムルノミ文化十年ニ至リ東蝦夷地官ノ直販ヲ止メ松前箱館ノ商估ニ命シテ撲買セシム文政四年東西蝦夷地ヲ松前ニ付シテヨリ以來漁場撲買皆舊ニ復ス安政二年二月東西蝦

夷地上地ノ時土人戸口撫恤等ハ官吏之ヲ管シ商估土人ヲ雇ント欲スル者ハ官ニ請ヒ日ヲ限リテ之ヲ役シ其雇賃米酒等ハ官ニ納レ官吏點檢シテ土人ニ給シ以テ姦詐ヲ防ク漁場撲買ハ尙ホ松前氏ノ舊ニ仍ル
明治二年九月官漁場撲買ノ商估ニ令ス當今版籍已ニ之ヲ上ニ納ル獨リ商估諸場ヲ撲買シ土地人民ヲ支配スルハ名分其宜ヲ得ス因テ自今廢停ス然ルニ米鹽漁具頓ニ支給ヲ止メハ支障スル所アラン宜ク現業ノ處分漸ヲ以テ變革スヘシ
十月二十九日函館開拓使出張所令シテ漁場請負ノ稱ヲ廢シ漁場持ト爲ス根室ハ明治三年二月十二日廢ス
十二月二十七日北見國標津斜里紋別三場所ヲ山田屋善吉

ヨリ上地セシメ開拓權大主典關定吉ヲ遣リ諸品ヲ查シテ受領セシム

明治三年正月又山田屋善吉借ル所ノ根室國野付郡漁場ヲ收メ函館生産方ニ於テ販鬻ス其土人ヲ遇スル無狀ナルヲ以テナリ

十月二十二日濱益石狩二郡漁場ハ本年限リ官ノ措置ヲ廢シ濱益郡ハ漁場願望ノ者へ本陣村持ノ名義ヲ以テ之ニ

付シ土人撫育ノ方ハ余市ト同一明治三年八月余市外二郡へ達土人介抱遺方ノ儀官持ノ事

ニシ本陣人馬遞送費用ハ收税内ヨリ交付スヘシ又石狩郡ハ家産殷富ニシテ志望ノ者ニ付與スヘシ且漁具其他

漁場ニ屬スル器物ハ從來漁場持讓與ノ體裁ヲ以テ交付スヘシ其他小樽郡ニアル石狩持鮭場モ亦同シ

明治四年十一月二十一日函館大年寄小林重吉ニ命シテ釧

路國厚岸郡ノ漁場持ト爲シ十二月十九日商估栖原半七

伊達林右衛門ニ千島國擇捉振別藁取紗那北見國枝幸宗

谷禮文利尻天鹽全國及天賣燒尻二島藤野喜兵衛ニ千島

國國後郡藤野伊兵衛ニ北見國斜里網走常呂紋別根室國

標津目梨ノ漁場持ト爲ス以後漁場ヲ追還貸付スル多シ一々舉

大ニ異リ此時省府藩士族寺院ノ北海道支配地ヲ收メテ開拓使ニ屬ス是ニ於テ本使漁場持ヲ定メテ税品ヲ賣却セシメ準備米用度品等購入監守セシムル爲メニ明治五年以降歩割稅ヲ與ヘ今ニ至テ改メス唯伐木及ヒ小物成等ノ如キハ本使許可シテ後稅納目録ヲ漁場持ニ付シテ税金ヲ徵納セシメ或ハ戸數稀少ノ場所ハ漁場持ヲシテ告諭ヲ郡民ニ布カシムル等ノ事アリ今ヨリ之ヲ見レハ各廳ノ用途ニシテ戸長ノ職務ヲ帶ル者ノ如シ

明治五年三月十五日根室管下漁場持藤野喜兵衛等ニ諭シ

凡テ山野ニ放火スルヲ禁ス但漁業ノ爲メ干場或ハ開墾

場等要用ノ地ハ風候ヲ勘定シテ之ヲ燒キ延燒セシム可
 カラス三月十五日根室管下漁場持代理ノ請願書ニ據
 五月十三日根室管下漁場持產物收獲ノ荷物ヲ船子ニ密賣
 シ後日敗露スル其收獲荷物ノ一倍罰金ヲ科スヘシ
 明治六年二月八日根室管下漁場興廢ハ其時官ニ報スヘキ
 者ナリ然ルニ擅ニ興廢スル者アルハ其宜ヲ得ルト爲サ
 ス自今春時漁業ハ三月ヲ限リ夏秋漁業ハ五月ヲ限リ請
 願シテ許可ヲ受クヘシ若シ期月後請願スル者ハ許可セ
 ス戸長徧ク漁場持ニ知悉セシムヘシ
 九月二十三日根室管下諸產物密賣ヲ禁スルハ前ニ嚴飭ア
 リト雖モ尙ホ疎漏ノ所置ナカラシメシ爲メ戸長徧ク漁
 場持ニ知悉セシムヘシ

明治七年五月十九日根室管下從前漁場ヲ借り今ニ至テ手
 ヲ下サ、ル者ハ本年又ハ明年ヨリ著手ノ期ヲ以テ開申
 スヘシ
 明治八年三月二十五日根室管下從來貸ス所ノ漁場昆布干
 場間數地名分明ナラス屢錯亂ヲ生ス自今更ニ丈量シ從
 來貸ス所ノ漁場間數帳簿ヲ改正セントス因テ豫メ漁場
 持ニ知悉セシムヘシ
 六月根室管下漁場漸次改正スヘシト雖モ目下漁場私ニ他
 人へ讓與シ尙ホ舊名ヲ存スル者アリ右ハ今般新舊姓名
 ヲ替ヘテ請願シ且以來ハ毎回請願スヘシ若シ看テ等閑
 ト做ス者ハ地所ヲ追還スヘシ
 六月根室管下漁場持代理人ヲ出シ置ク者或ハ品行宜カラ

六サル者アリ自然雇人等へ示諭疎漏ヨリ上ノ令スル所ニ違フ者アラハ其宜ヲ得サルナリ仍テ查點シ相當ノ處分ヲ爲スヘシ

明治九年五月三日本廳管下後志國岩内郡茅沼村漁民伊藤重之助古宇郡泊村漁民西宮利三郎へ本使資本ヲ貸シ新ニ漁場ヲ開カシム

八月二十九日根室管下根室野付兩郡界西別川鮭漁ノ者へ漁場ヲ分與スル各三町

九月二十一日管内ニ令ス北見根室千島方面漁場持ノ者從來ノ習慣ヲ固守シ賃作ノ體裁ヲ存シ廣大ノ地ヲ官ニ借り地餘リアリテ力足ラス却テ他人ノ開業スルヲ猜忌スルノ弊習アリ速ニ此弊ヲ除キ勸誘ノ道ヲ盡サ、レハ人

民移住ノ障害トナリ遂ニ獨立ノ營業ヲ爲サシムル能ハサルヲ以テ從來漁場持ヲ許ス者一切之ヲ止メ地ヲ官ニ納レシム且寄留人借受ノ漁場昆布場明治五年九月地所規則公布以來未タ精査セス家屋倉庫敷地等ノ經界畝數判然タラサルヲ以テ全郡又ハ數郡ヲ一併ニ借受ル者モ亦地ヲ官ニ納レシム然ルニ舊漁場持ノ者其舊習ヲ改メ明治十年ヨリ新ニ營業ヲ乞フ者ハ實地調査シ害ナキ者ハ應分ノ地ヲ更ニ分撥スヘシ其他永住寄留ノ別ナク營業志望ノ者ハ下ニ掲ル郡數ノ内書式ニ倣ヒ本年十月三十一日ヲ限り出願スヘシ其漁場昆布場アル郡數ハ千島國擇捉振別藻取紗那國後ノ五郡北見國斜里網走常呂紋別枝幸宗谷利尻禮文ノ八郡根室國標津目梨二郡根室花

咲野付三郡ノ内天鹽國增毛留萌苫前天鹽四郡ノ内膽振
 國千歳白老幌別三郡日高國沙流新冠三石三郡釧路國白
 糠釧路ノ二郡厚岸郡ノ内タリ十一月十三日徧ク府縣ニ
 告示ス因テ栖原小右衛門伊達林右衛門持ツ所ノ漁場昆
 布場北見國枝幸宗谷禮文利尻ノ四郡天鹽全國小林重吉
 ノ日高國三石郡飯田信三ノ沙流郡青山藤吉細野光儔ノ
 新冠郡日野愛喜ノ膽振國幌別郡石山專藏山口安五郎ノ
 千歳郡山谷橘次郎平田新三郎ノ白老郡小杉房吉ノ幌別
 郡白鳥宇兵衛ノ有珠郡ノ地ヲ還納セシム然ルニ今年鮭
 漁ノ營業收稅等ハ從前ニ仍ル若シ明年嗣テ借ント願フ
 者ハ實地ヲ點檢シ應分ノ地ヲ分撥スヘシ
 九月三十日根室管下北海道地所規則壬申九月告示ニ依リ今般

漁場昆布場實地丈量シ地坪制限ヲ立テ地券ヲ付與スル
 ニ由リ各漁場昆布場一箇所毎ニ調査シ來月四日迄ニ開
 申スヘシ
 明治十年二月十九日根室管下第二十五大區一二三四五小
 區副戸長ニ諭ス漁場昆布場新開ヲ請フ者ハ之ヲ許スヘ
 シ其餘舊場ヲ請フ者ハ姑ク之ヲ停ム
 四月二十一日根室管下漁場昆布場海岸河岸ヲ借ルヲ願フ
 者ハ官員ヲ派シ點檢シテ之ヲ貸スヘシ且昨冬丈量ノ假
 柱ヲ建換ヘキニ由リ各場所ノ員數ニ應シ各自持場ニ赴
 クヘシ
 六月二十六日根室管下漁場昆布場ヲ借ル者本人其業ヲ營
 マスシテ他人ヘ轉貸スルヲ許サス若シ右所爲アル者ハ

漁場ヲ追還スヘシ
十二月十三日地券發行條例摘錄
地所四種ノ一海產干場

山林川澤河岸海岸等ハ凡テ官地ト爲シ其障礙ナキ地ハ
或ハ貸シ或ハ賣ル其貸ス所ノ者ハ券ヲ給シ地價百分ノ
四一ヲ征收ス但海產干場ヲ有スル者他人ニ貸スモ妨ケス
須ラク其事由ヲ具狀ス可シ海產干場ハ一券ノ地ヲ割
テ賣買讓與スルヲ禁ス明治九年漁場ヲ更正シ更ニ分
撥スル所ノ海產干場其他除租年限中賣買讓與スル所ノ
地ハ初年ヨリ通算ス海產干場ハ其業ノ大小ニ隨テ坪
數間數ノ制限ヲ定ル大畧左ノ如シ但地形ニ因リ増減ア
ル可シ又舊來戸口稠密此ノ制限ニ循ヒ難キ地ハ從前ノ

慣習ニ依リテ其有ト爲サシム且地形ハ舊ニ依リ鮮場ニ
於テ鮭ヲ漁シ鮮場ニ於テ鮮ヲ漁シ其他ノ漁業ハ凡テ自
由タルヘシ鮮鰯建網一統千坪鮮鰯鮭引網一統千五百
坪鮮差網十放二百坪鮮建網一統五百坪大房網一統五百
坪昆布刈船一隻四百五十坪但一區ノ干場ニ於テ網數統
船數隻ヲ用テ業ヲ爲ス者ハ每一統一隻ニ制限坪數ノ半
ヲ加ヘ鮮差網ハ每十放ニ四分ノ一ヲ加フ干場坪數ノ
制限上文ノ如シト雖モ堅短ク坪數ニ滿タサル者ハ横ヲ
長クシ又堅ノ長キニ過ルモ地形ニ因リ害ナキ者ハ之ヲ
許ス海產干場海岸ヨリ五間乃至十五間ヲ官地ト爲シ
テ貸與シ山岳等ノ海濱ニ突出シ土地狹隘ニシテ間數外
ニ餘地ナキ所ハ凡テ官地ト爲シテ貸與ス可シ但便宜ニ

因リ他人ニ貸ントスル者ハ其地ニ接スル官地ハ之ヲ官ニ還シ更ニ後人ヨリ官ニ請フ可シ又上文ノ間敷ヲ道路ノ敷地ニ充ルコアルヘシ土著ノ民ニシテ從來其地ヲ有シ干場内ニ居ル者ハ超過一割以下ノ地ヲ有スルヲ許ス海産干場坪數制限ハ居宅漁舍倉庫ノ敷地ヲ合算スヘシ但敷地除租ハ七年ヲ期トス海産干場ノ地ヲ分撥スルノ後所有者其業ニ著カスシテ他人ニ賣買讓與スルヲ許サス分撥後一年業ニ著カス及ヒ業ニ著キ中止スル者ハ其地ヲ追還ス可シ且甲既ニ手ヲ下シ乙之ヲ買テ後手ヲ下サ、ルカ或ハ手ヲ下シテ中止スル者ハ上等地價、千坪一圓五十錢ニ照シテ之ヲ官ニ買フ可シ

明治十一年一月十二日根室管下漁場昆布場敷所ヲ占有シ

十他人ノ開業ヲ拒ミ或ハ自ラ其業ヲ行フノ目途ナク名義ヲ私シ他ヨリ金錢ヲ貪リ轉貸スル者ナシトセス其弊害因テ除ンカ爲メ戸長ヲシテ轉貸スル者等ノ事由ヲ查セシム

三月四日根室管下土地丈量ノ後海産干場剩餘アル者ハ一人三個所以下抽籤ノ法ヲ以テ分撥スルニ由リ願望者ハ賣貸地共ニ請願セシム

八月十五日根室支廳各分署ニ令ス海産干場ヲ授受及ヒ新開營業ヲ願フ者遠隔ノ地方往復日ヲ費シ爲メニ著手ノ期ヲ誤ルモ亦知ル可ラス自後官地ト爲シ人民ノ請ヲ許サ、ル所ヲ除ノ外ハ營業ノ期ニ迫リ指令遲滯苦情アル者ハ分署ヨリ論シ營業ニ著手セシメ後官ニ告ルヲ許ス

明治十二年一月二十二日根室管下海產干場一旦分撥スル
 後事故アリ上地及ヒ追還スル場所自今營業ヲ願フ者ハ
 實地ヲ查シ其景況ニ依リ課稅或ハ除租年間伸縮等ヲ令
 スヘシ願望者ハ新開同一ニ地圖及ヒ收獲豫定ノ額開業
 入費等ヲ開載シ願書ヲ出スヘシ
 明治十三年三月十五日浦河郡役所ニ令ス曩ニ八年中人民
 組合ヲ以テ五年間十勝國一圓漁場貸與ヲ許可スルモ本
 三年期滿ツルヲ以テ九年九月二十一日日本使^乙達ニ據リ
 一旦上地セシム
 四月根室管下海產干場ヲ官ニ請フ者ハ比隣營業ノ者承諾
 ノ添書ヲ要ス
 十月二日根室管下海產干場斥賣地券及ヒ貸地證憑付與之

ナキ者ヲ調査ス因テ明治十年以降^{但國後郡ハ明治十一年ヨリ}本年九月迄
 許可ノ者一村毎ニ戸長之ヲ查シ一郡毎ニ集テ本年十二
 月三十一日迄ニ開申スヘシ
 明治十四年二月二十八日根室管下海產營業ノ者從來使用
 入スル干場附帶ノ海面ニ於テ更ニ他ノ海產採捕營業セシ
 トスル者ハ詳細開申シ許可ヲ受クヘシ

漁業資本金貸與

明治六年八月十四日本廳申ス根室釧路兩國小民取獲產物
 ヲ販鬻スル無力ニシテ函館ニ致ス能ハス已ムヲ得ス之
 ヲ下場ノ船ニ賣ル其價極テ低下歲々諸品ヲ購フニ足ラ
 ス情實憫然ノ至ナリ因テ明年ヨリ根室州三千圓釧路州
 三千圓ヲ根室支廳準備金内ヨリ貸與スル西地貸與ノ例

ニ依ント黒田次官之ヲ許ス西地貸與ハ鮮漁ノ事ニ係ル鮮漁ノ條ニ收ム

明治七年五月十八日根室管下根室釧路兩州漁場持等資金不融通諸品買入ニ窘ム因テ特別ヲ以テ金六千圓ノ内各其分ニ應シ一年八朱ノ息ヲ付シ明治七年ヨリ三年ニ賦シ願望者へ貸與スヘシ若シ期限ニ至リ辨納スル能ハサル者ハ抵當ヲ官没シ且借主死去或ハ變災等ニテ完清スル能ハサル者ハ保人代テ完清スヘシ

六月四日本廳管下西部各出張所ニ令ス本年西部各郡大ニ漁獲アリ此後漁獵豫備ノ爲メ所轄漁民へ金ヲ貸與スヘキニ由リ所在官吏厚ク注意シ商民及ヒ船手ノ姦計ニ陥ラシムルナク且貸與セハ相當ノ漁品等ヲ抵當ト爲シ完清ノ目途ヲ立テ開申スヘク或ハ輸出等豫算ノ條アラハ

詳細具申スヘシ

六月十七日根室管下根室釧路二國ニ諭シテ根室ハ金六千圓釧路ハ金一萬二千圓ノ原額ヲ定メ各其分ニ應シ一年八朱ノ息ヲ付シ明治七年ヨリ三年ニ賦シテ貸與スヘシ以下五月十八日達ニ同シ

明治九年十一月二十四日本廳民事會計兩局各分署ニ令ス人民興益ノ爲メ北海道産物昆布海鼠干鮑干鰯四品ヲ勸商局ニ購ヒ支那國ニ輸出セントシテ賣買條約及ヒ事務處分順序ヲ交換ス因テ稅品及ヒ人民貨物ヲ勸商局ニ賣ントスル者ハ該順序ニ據リ處分スヘシト十年五月二十六日定約改正ノ告諭アリ是ニ於テ資本金貸與順序ヲ定

ム 本使勸商局ト賣買條約等ハ官更ノ心得故ニ略ス

北海道出產昆布煎海鼠乾鮑鰯勸商局

- 第一條 資本金貸與順序
- 第二條 前條請願人調査了ルノ後函館支廳ニ集メ勸商局豫定ノ金額
- 第三條 札幌集會ニ於テ契約スヘキ條件決定ノ後各郡借資者ノ姓名
- 第四條 資本金分貸ノ方法ハ各自前年平均收穫豫算ノ内ヨリ收
- 第五條 貸與ノ方法ハ前條々ノ如シト雖モ資本金年賦償還中ハ收穫
- 第六條 資本金分貸了ル後一郡限リ貸與ノ人名及ヒ本人領授ノ月日
- 第七條 貸與金催還利子計算等ノ方法ハ一ニ賣買定約並賣買事務處

明治十年五月區戸長總代ニ論ス北海道產物賣買ノ方法明

治九年十月内務大藏兩省本使ト結約ノ后尙ホ實際ノ適
否ヲ斟酌改定條約ヲ互換ス宜ク漁場昆布場營業ノ者ヘ
告示シ爾來資金貸與及ヒ物品買收請求ノ者ハ該則ニ據
テ調査スヘシ

- 第一條 北海道產物賣買定約
- 第二條 物產ノ價格ハ函館ニ於テ授受ノ際同地ノ時價ニ依リ即日熟
- 第三條 開拓使管下ノ人民ヘ産業資本金ヲ貸與スルハ一個年六分ノ
- 第四條 勸商局ヨリ開拓使ヘ償還スヘキ尤資本金授受等人民ヘ對ス
- 第五條 勸商局ハ開拓使ニ於テ管理シ其返濟ヲ保任スヘシ但本條償還
- 第六條 勸商局ハ開拓使ニ於テ管理シ其返濟ヲ保任スヘシ但本條償還
- 第七條 勸商局ハ開拓使ニ於テ管理シ其返濟ヲ保任スヘシ但本條償還

第四條 資本金ヲ貸リタル者收獲ノ物品勸商局ヘ交付スヘキ數額ハ
 豫メ約定スヘシ資金ヲ償還ノ後猶物品除厖アル者ハ直ニ買收シ代
 價ハ勸商局ヨリ開拓使ヲ經テ出產人ニ交付スルハ昆布煎海鼠乾
 第五條 前條貨與ノ資本金產物ヲ以テ償還スルハ昆布煎海鼠乾
 第六條 前條物品授受ノ昆布煎海鼠乾ハ收獲地煎海鼠乾ハ函館福
 第七條 昆布煎海鼠乾ハ收獲地煎海鼠乾ハ函館福
 第八條 昆布煎海鼠乾ハ收獲地煎海鼠乾ハ函館福
 第九條 昆布煎海鼠乾ハ收獲地煎海鼠乾ハ函館福
 第十條 昆布煎海鼠乾ハ收獲地煎海鼠乾ハ函館福
 第十一條 昆布煎海鼠乾ハ收獲地煎海鼠乾ハ函館福
 第十二條 昆布煎海鼠乾ハ收獲地煎海鼠乾ハ函館福
 第十三條 昆布煎海鼠乾ハ收獲地煎海鼠乾ハ函館福
 第十四條 昆布煎海鼠乾ハ收獲地煎海鼠乾ハ函館福
 第十五條 昆布煎海鼠乾ハ收獲地煎海鼠乾ハ函館福
 第十六條 昆布煎海鼠乾ハ收獲地煎海鼠乾ハ函館福
 第十七條 昆布煎海鼠乾ハ收獲地煎海鼠乾ハ函館福
 第十八條 昆布煎海鼠乾ハ收獲地煎海鼠乾ハ函館福
 第十九條 昆布煎海鼠乾ハ收獲地煎海鼠乾ハ函館福
 第二十條 昆布煎海鼠乾ハ收獲地煎海鼠乾ハ函館福

第十一條 物品ノ價格雙方所見ヲ異ニスル歟或ハ本人委託販賣ヲ請
 館ニ於テ現品領收ノ日迄ノ利子海上保險料輸送運賃總テ販賣了迄
 局ニ委託シ清國ニ輸送販賣ヲ欲スル者ハ渾テ該物品ヲ函館ニ於テ
 第十二條 資本金ヲ借ル出產人需用品買送ヲ依頼スル者ハ第七條集
 會ノ時出產人總代ヨリ開拓使ヘ開申シ勸商局ヘ通報シ該局之ヲ廣
 業商會ヘ命シ其契約ヲ定メ便宜ノ處分ヲ爲サシムヘシ其代金ハ貸
 與金額ヨリ扣除スヘシ但本條物品ハ場所領收ノ代價ヲ約定シ或ハ
 右十二條北海産物賣買ノ方法明治九年十月約定スル所ノ條款ニ基
 キ實際ノ適否ヲ斟酌シ今般内務大臣薩摩省開拓使ト協議シテ改定セリ
 若シ一個年施行シ實際ニ恰當セサレハ更ニ協議改正若クハ加除スル
 事アルヘシ依テ雙方主任ノ官員署名捺印シテ之ヲ交換ス
 明治十年四月二十八日勸商局長内務大臣薩摩省開拓使河瀬秀治國債局長大
 藏大臣記官郷純造開拓大書記官西村貞陽
 北海産物賣買事務取扱順序
 第一條 開拓使收稅品内清國需用ノ昆布煎海鼠乾鮑錫四品函館ニ回
 著スル直ニ開拓使支廳ヨリ該地出張勸商局官員ニ報告シ物品下船
 ハ報告ノ日ヨリ五日(暴風雨及ヒ先著荷物受渡中ノ時間ヲ除ク)ヲ過
 キサルヘシ但收稅地方ニ於テ授受スル者ハ其數量及ヒ回船ノ便宜
 等函館ニ於テ臨時豫定スヘシ

第二條 前條下船スル者ハ雙方官員會同點檢シ勸商局官員ヨリ即刻
 該品ノ價格ヲ開拓使ヘ通告スヘシ同使此ノ通告ヲ得ル即日承諾又
 ハ委託販賣ヲ決定回答スヘシ
 第三條 前條物品價格確定セハ直ニ現品ノ授受ヲ爲シ勸商局ヨリ該
 品ノ數量等ヲ記載シ證書ヲ勸商局ヘ送スヘシ但委託販賣ノ物品ハ其時々
 ハ金額領收ノ證書ヲ勸商局ヨリ勸商局ニ交付以前非常ノ災害ニテ損
 數量等ヲ記載シ證書ヲ勸商局ヨリ勸商局ニ交付以前非常ノ災害ニテ損
 第四條 前條ノ物品開拓使ヨリ勸商局ニ交付以前非常ノ災害ニテ損
 失アルモ勸商局關係アルナシ又勸商局ハ開拓使ヨリ物品領收ノ後
 同様損失アルモ開拓使關係ナカルヘシ但委託販賣物品ハ此限ニア
 ラス
 第五條 物品授受諸入費ノ折算ハ下船及ヒ秤量等ノ雜費ニ至ルハ開
 拓使ヨリ差出シ秤量後領收蔵入等ノ雜費ハ勸商局ヨリ差出スヘシ
 但收稅地方ニ於テ物品授受スル者ハ第十八條ノ例ニ據ルヘシ
 第六條 資本金貸與スル物品ノ部
 一 昆布ハ日高國沙流郡新冠郡靜內郡三石郡浦河郡
 似郡幌泉郡
 十勝國ノ内 十勝郡 廣尾郡
 釧路國ノ内 白糠郡 釧路郡
 根室國ノ内 花咲郡 厚岸郡
 一 煎海鼠
 一 乾鮑

右三品ハ收獲地ヲ豫定セズ開拓使ノ適宜タルヘシ
 第七條 前條物品ノ場所並ニ品目ヲ變更スルハ其前々年中勸商局
 ヨリ開拓使ニ報告シ更ニ決定スヘシ
 第八條 開拓使管下人民ヘ産業資本金ヲ貸與スルハ前年十月中勸商
 局其金額ヲ豫定シ開拓使ニ通達スヘシ同使ハ其金額ニ應シ實際調
 査シ借人ノ姓名物品ノ數量並其本人ノ領受スヘキ金額及ヒ期月等
 ヲ明記シ勸商局ニ移報シ總金額授受等ノ契約ヲナスヘシ
 第九條 前條貸與金ハ勸商局ヨリ通達シタル豫定ノ金額ヲ超ヘサル
 ヘシ若シ授受契約後ト雖モ請求者アリテ金額ニ餘贏アルハ雙方
 協議シ尙ホ貸與金ノ授受ヲナスコトアルヘシ
 第十條 前條資本金ハ函館ニ於テ授受ヲ爲シ豫定メタル契約ヲ
 遵守スヘシ尤其時々金額領收ノ證書ヲ開拓使ヨリ勸商局ヘ送スヘ
 シ
 第十一條 貸與金ノ利子ハ借用ノ本人受領ノ日ヨリ物品償還了ノ日
 迄ヲ通算シテ之レヲ課スヘシ
 第十二條 前條資本金ヲ貸與スルノ方法ハ開拓使之レヲ豫定シ勸商
 局ヘ通達スヘシ若シ其方法ヲ更正スル等ハ其時々同局ヘ通告スヘ
 シ
 第十三條 資本金貸與ノ出產人ハ開拓使ニ於テ各地總代ヲ設ケシム
 ヘシ
 第十四條 前條出產人ノ收獲物品ハ開拓使督理シテ勸商局ヘ償還セ
 サルノ間ハ他ニ販賣セシメサルヘシ
 第十五條 償還ノ物品收獲地ノ授受ハ勸商局ヨリ廣業商會ニ命シ豫
 テ受領人ヲ各地ヘ派出シ開拓使ハ出產人總代ヲシテ現品ヲ交付セ

シムヘシ但現品ノ品位數量等ハ必ス開拓使各地方分署詰官員(時宜ニ因リ區戸長)ノ點檢ヲ經ヘシ

第十六條 前條償還ノ物品各地ニ於テ授受了ノ後ハ其品目數量等ヲ詳記シタル領收證書ヲ廣業商會ヨリ出產人ヘ付シ日後函館ニ於テ悉皆收集シ印影豫テ勸商局ヨリ開拓使ヘ回付スヘシ但領收證書ヘ勸合ノ印影豫テ勸商局ヨリ開拓使ヘ回付スヘシ

第十七條 貸與金償還ノ後尙ホ物品餘贏アリテ之ヲ勸商局ニ買收スル時ノ處分ハ買收物品ノ後尙ホ物品餘贏アリテ之ヲ勸商局ニ買收スル時ノ雜費ハ出產人ヨリ差出シ秤量後受領ノ後本船裝載等ノ雜費ハ勸商局ヨリ差出スヘシ但本船裝載ノ人夫及ヒ解船等ハ豫メ開拓使ヨリ該地人民ヘ諭達シ其時々差支ナカラシムヘシ

第十九條 委託販賣ノ物品ハ函館ニ於テ交付スヘシト雖モ出產人ノ便宜ニ由リ其收獲地方ニテ勸商局ノ船ニ附搭シ輸送ヲ願フ者ハ相當ノ運費ヲ以テ之レヲ回漕スルヲ函館ニ購入シ積下ントスルモ本條ニ準シ其船ヘ便宜附托スルヲアルヘシ

第二十條 資本金償還ノ昆布價格豫定ノ集會ハ開拓使ニ於テ適宜月日ヲ定メ豫メ函館出張勸商局官員ニ通知シ且各地ノ總代ヲ召集スヘシ尤雙方右期日三日前必ス札覬ニ到達スヘシ

第二十一條 集會シテ價格確定セハ郡別ニ價格ヲ掲ケ本年貸與ノ資本金償還ノ昆布ハ此價格ヲ以テスヘキヲ出產人廣業商會連署締約本條ノ價格ハ上等品ヲ以テスヘシ

第二十二條 前條償還ノ昆布授受ノ場所及ヒ期月ハ札覬集會ニ於テ出產人總代廣業商會ト熟議確定セシムヘシ

第二十三條 前條償還ノ昆布ハ上等ノ品位ヲ以テ價格ヲ豫定スルニ依リ收獲地ニ於テ授受ヲ爲ス以前勸商局開拓使官員暨ヒ廣業商會該地出產人總代會同壹部毎ニ見本ヲ取リ檢査シテ該地開拓使分署又ハ戸長役場等ニ備フヘシ若シ授受ノ際仕立方粗漏ナルカ或ハ赤葉ヲ交ヘ又ハ乾方善ラス又ハ腐氣等ノ品アルハ熟議シテ相當ノ價格ヲ折減スヘシ尤見本昆布ハ日後勸商局ヘ買收スヘシ但折減ノ價格雙方異議アリテ決定セサルハ賣買定約第十一條ニ據テ處分スヘシ

第二十四條 貸與金償還ノ昆布授受ノ際數量秤量方ハ從來ノ慣習ニ據リ現品ヲ拵立シ抽籤ヲ以テ一拵毎ニ五把以上ヲ秤量シ其平均量目ヲ以テ總額ノ數量ヲ定ムヘシ

第二十五條 勸商局昆布積取船授受ノ地ハ著スルヲ以テ出張廣業商會ヨリ該地開拓使分署(分署無之地ハ區戸長役場)ヘ報スルニ於テハ其翌日ヨリ五日間(暴風雨及ヒ先著荷物授受ノ時間ヲ除ク)ヲ限リ該品ヲ授受ノ地ヘ運搬セシムヘシ但積取ノ石數ハ豫テ出張ノ廣業商會出產人總代ト協議シテ分署ノ承認ヲ經テ回船ノ手配ヲ爲スヘシ

第二十六條 煎海鼠乾鮑鰯ノ三品ハ豫メ定メタル各地ニ於テ其時々價格ヲ確定シ授受ヲナスヘシ尤價格異議アリテ決定シ難キハ賣買定約第十一條ニ據テ處分スヘシ勸商局ヘ但本條ノ物品授受ノ期月ハ資本金貸與契約ノ際開拓使ヨリ勸商局ヘ通告スヘシ

第二十七條 開拓使管下人民昆布煎海鼠乾鮑鰯ノ四品資本金貸與ヲ買上物品ノ部

仰カスシテ現場買収ヲ請フモノハ開拓使ニ於テ札幌集會ノ後出品
 ノ概計及ヒ各地出產人總代等ヲ定メ其金額ヲ勸商局ニ報告スヘシ
 但本條買收物品ノ内昆布ハ第六條ニ掲クル各地ノ出產ニ限ルヘシ
 第二十八條 前條物品ノ價格及ヒ授受ノ順序ハ資本金貸與物品ノ處
 分ニ同シ若シ煎海鼠乾鮑鰒ノ時價及ヒ昆布定價ノ折減ニ異議ヲ生
 スルモ其物品ノ賣買ハ雙方ノ意ニ任スヘシ
 第二十九條 物品買收ノ期ニ至レハ第二十七條ニ掲ル報告ノ金額ヲ
 勸商局ヨリ開拓使函館支廳ヘ送付シ該廳ニ於テハ之レヲ各地分署
 へ配置スヘシ
 第三十條 前條買收物品ハ各地出張廣業商會ニ於テ受領シタル現品
 ノ數量及代價ヲ明記シ其金額ハ分署ヨリ領收スヘキノ證書ヲ出產
 人ニ付スヘシ分署ハ證書面記載ノ金額ヲ交付シ完済ノ後總決算ヲ
 爲スヘシ
 第三十一條 函館出張勸商局官員札幌本廳根室支廳管下出張先キ其
 他便宜ニ由リ直ニ該廳主任ノ官員ニ照會協議スルヲアルヘシ
 第三十二條 此事務處分順序ハ一個年施行シ實際不便ノ項アラハ雙
 方官員合議シテ改正加除スル事アルヘシ右三十二條ハ北海道產物
 賣買ノ方法明治九年十月約定面尙ホ實際ノ適否ヲ斟酌シ更ニ内務
 大藏兩省開拓使ト協議改定シタル契約ノ旨趣ニ基キ其事務處分ノ
 順序ヲ議定シ開拓使ト勸商局主任ノ官員署名調印シ之レヲ交換ス
 ルモノナリ
 明治十年四月二十八日勸商局長内務大書記官苗字名印開拓大書
 記官苗字名印

明治十一年四月根室支廳藤野喜兵衛藤野伊兵衛ニ論ス請
 願ニ依リ北見州四郡及ヒ國後郡漁場漁業ノ爲メ資本金
 二萬五千圓ヲ貸シ一年八朱ノ利子ヲ附ス須ク抵當ヲ呈
 スヘシ且從來產物粗惡ノ製法ヲ正シ良品ヲ輸出シ運搬
 ノ時期ヲ失ハサルヲ要スヘシ五郡舊土人ノ撫恤從前ノ
 體裁ヲ更メ漸ク授產ノ方法ヲ設ケ加フルニ人事ヲ知り
 物理ヲ辨シ自立生理ヲ經營セシメ平生勸誘ヲ旨トシ別
 紙掲載ノ條ヲ遵守スヘシ
別紙ハ各場ノ費用ヲ區別シ一郡仕入
物ノ品類ヲ分テ戸長ニ報シ價直ヲ付
シテ各場ヘ散シ費消殘額ヲ分テ表ニ記シ戸長ニ報シ產物ヲ精製シ
價ヲ落スナク小利ヲ見テ輸出ヲ減スルナク舊土人ヲ勸誘シテ獨立ノ
道ヲ立テシメ物品ヲ賣買スル其時價ヲ以テ
正貨ヲ付シ願餘貯蓄セシムル等ノ事ニ係ル
 明治十一年 月 日 管下ニ令ス本道漁業者資本乏シク供給ヲ
 他ニ仰ケハ息重ク物輕ク常ニ利ヲ失フ者尠ナカラス因

テ該業ヲ振興シ永遠自立ノ基礎ヲ固セシムルカ爲メ帑金ヲ
 出貸シ貯積ノ法ヲ設ケ貯積厚ク帑金完清ノ後官保護シ
 テ其營業者ノ公有ニ歸セシメント仍テ規則ヲ設ル左ノ
 如シ
根室支廳ハ十一年二月五日第六號ヲ以テ達ス

漁業資本貸與規則

第一條 漁業資本ノ金額ハ姑ク本廳管内三萬圓函館根室管内各一萬圓
 ト爲シ其請求者ニ貸ス但各廳直轄ノ郡民ハ民事(局課)其他ハ各分署
 査シテ貸付(課係)ニ報告スヘシ
 第二條 資金ハ財產物ヲ抵當トス償還ハ正貨產物各自ノ望ミニ任セ戸
 長之ヲ管督シ其完清ヲ保任スヘシ但凶歉災害已ムヲ得サル事故ア
 ル者ハ年賦返納ヲ許スト雖モ其願末ヲ詳悉シ三ヶ年賦ヲ越ヘサル
 第三條 資金ヲ貸スハ民産興起自立ノ基礎ヲ固フスル爲メナレハ一ヶ
 年一割二分ノ利率ヲ納メシメ五分ハ官收シ六分ハ資本貯積トシ年
 々貸與ノ額ニ加ヘ而シテ其金額ヲ官貸ヨリ遞減シ一分ハ取扱ノ諸
 費ニ充テ貯積ヨリ生スル利子一分ヲ除シテ諸費ト爲シ其他ハ貯積
 へ加入シ終ニ其貯積ヲ以テ資本ニ供シ餘アルニ至ラシムヘシ且官
 金出貸ヲ減シ盡スノ後ノ出納方法ハ其時更ニ審定スヘシ
 第四條 產物ヲ以テ償還スルハ鯨(漁況)ニヨリ鯨及ヒ身欠鯨等取交ル

モ妨ケナシ(鬮)糶及ヒ鹽切鮭トシ(昆)布乾鮑鰯等ノ類ハ商局ヨリ
 資本貸與方アルヲ以テ之ヲ除ク該物品返納ノ地ハ各郡納稅ノ箇所
 ニ於テスヘシ但本條貸與ヲ受クル者ハ償還物品ノ數額ヲ豫定シ完
 納ニ至ラサルノ間ハ他ノ販賣ヲ許スヘラスト雖モ若シ正貨上納ヲ
 爲スカ爲メニ收獲ノ產物ヲ販賣セント欲スルモノハ別ニ所有動不
 動產ノ内或ハ漁具等ヲ以テ抵當ニ充テ區戸長ヲシテ保證セシムヘ
 第五條 物品ノ價格ハ該地ノ正金賣買ノ時價(慣習)ノ立相場ニ非スヲ以
 テ貸金母子ヲ算シ領收ノ後現品賣買等ノ順序ヲナスヘシ
 第六條 資金ヲ貸スハ各分署(各廳直轄ノ郡村ハ民事(課局)以下皆同シ)ニ
 於テ該地區戸長ニ命シ資力ノ多寡ヲ檢知シ上中下ノ三等(自己)ノ資
 力ヲ以テ營業スルモノヲ上等トシ抵當物ヲ所持シ資金ヲ他ニ仰ク
 モノヲ中等トシ抵當品ヲ所持セス翌年收獲ノ產物ヲ以テ資金ヲ他
 ニ仰クモノヲ下等トス)ニ區分シ下等ノ者ヨリ順次情願ヲ推綱シ三
 人乃至五人ヲ一團トシ保證人連署第一號書式(略ス)ノ額面ヘ戸長與
 印シ分署ニ集メテ審査シ障礙ナキハ之ヲ貸附(課係)ニ送ルヘシ但本
 條ノ金額ハ建網一投金三百圓ヨリ多カラサル金額ヲ兩度(人)夫雇入
 ノ際漁業終末ノ前ニ區分シ第二號書式(略ス)ノ證書ト交換シテ貸ス
 第七條 物品ヲ以テ償還スルハ其期ニ至リ貸付(課係)官員相臨ミ分署又
 ハ巡部官員ニ協議シ授受ノ地ニ就テ區戸長總代等會同品位ヲ監シ
 秤量ヲ査シ後凡貸金母子ニ對照スヘキ數額ヲ領シ便宜輸出ノ港
 灣ニ解下小廻シノ手配リヲ爲シ他日過不足總決算ヲ爲スヘシ
 第八條 物品積取船ハ函館ニ於テ手配スヘキニ因リ各地輸出ノ品目數

量及回松ノ箇所積取期限等ヲ豫定シ貸付(課係)ニ通報シ同(課係)ニ於テ調理製表シテ函館支廳ニ移シ回松ノ順序ニ及ヒ尙ホ現場ニ臨ミ電信等ヲ以テ報知スヘシ根室支廳ニ於ル亦同シ

第九條積取ノ松船各地ニ達セハ出張貸付(課係)官員直チニ裝載ノ處分ヲ爲シ了リテ送り状ヲ下付シ隨時副本ヲ以テ該(課係)并ニ函館會計課へ報道スヘシ

第十條償還ノ物品輸出ニ至ル迄ノ授受及ヒ人民ニ對スル貸與金母子ノ計算等ハ貸付(課係)ニ於テ明細簿記整理スヘシト雖モ順次輸送ノ產物松長領收證書ヲ添(同(課係)ヨリノ報告ニ隨ヒ函館會計課ニ於テ之ヲ管理シ物品販賣ノ代價及ヒ輸送ノ經費等出入詳記毎松差引計算金圓一同各應貸付(課係)ニ送り總決算ノ後一括統計表ヲ作り頒布順序ヲ成シ各應貸付(課係)ニ於テハ管内總計明細表ヲ調製シ人民ニ廣告スヘシ

第十一條物品販賣ノ後一ケ年純益金一割迄ハ損失アルトキノ償ニ充テ蓄積シ若シ超過スルトキハ其超過ノ半額ヲ別ニ蓄積シ造艦費(漁民ノ共有トス)ニ充テ半額ハ諸費ニ編入ス

十一月二十六日根室管下曩本年二月二十六日ニ示スニ漁業資本金貸

與ノ事ヲ以テス尙ホ收獲ノ途ヲ擴メ更ニ三萬圓ヲ増シテ貸與ス右ハ專ラ高利ノ資金ヲ他ニ仰キ漁期收獲品ヲ占收セラレ賣買ノ利用ヲ失フノ弊ヲ去リ稍ク資本餘リ

アルニ至ラシメントス其返納ノ時正貨ヲ以テスルモ貨物ヲ以テスルモ各其情願ニ任セ販鬻代價蓄積ノ餘金ハ時ニ臨ミ頒付スル等ノ法ヲ設ケ其便益ヲ得セシムヘキニ由リ宜ク營業人ニ知悉セシムヘシ

明治十二年二月二十一日本廳申ス石狩國石狩川字ライサツ及ヒ、シヒシヒウス等ニ於テ對雁移民ヲシテ本年初テ鱒漁ヲ爲サシメ之ニ供スル必需ノ物品及ヒ其他ノ費金九百六十二圓七十五錢ヲ定額内ヨリ貸與シ本年八月中旬收獲物賣却代價ヲ以テ完清セシメント長官之ヲ允ス

明治十三年八月二十二日根室管下漁業資本貸與ハ素ヨリ有限ノ金額一般漁民へ普及シ難キヲ以テ姑ク各郡一期出貸ノ額ヲ假定シ貸與スヘシ若シ出貸ノ後甲乙郡ノ内

剩餘不足アルハ互ニ流融出貸スヘシ

管下漁業資金各郡貸下假定額
一金七萬圓 內金二萬五千圓 根室野付兩郡
一金二萬圓 厚岸釧路兩郡
一金八千圓 標津目梨兩郡
一金四千圓 北見四郡
一金五千圓 國後郡
一金八千圓 擇捉外三郡

明治十四年八月上稟ス十一年貸與規則ヲ設ルヨリ金額増シテ四十九萬餘圓ヲ供フ然ルニ明年一月本使定額金交付滿期ナルヲ以テ大藏省ヨリ貸與セラレ他日人民結社等ヲ以テ資本貸借融通ノ便利ヲ得セシムルニ至ンテト官令ス本年貸シ與フル金四十八萬八千五百餘圓ハ國帑ニ償還スル兌換證券引換元金二百五十萬圓ノ内ニ取り明年六月ニ至リ悉皆之ヲ償フヘシ

此事務廳使以後大藏省ニ屬ス

獵業

鳥獸諸獵

明治八年十二月二十日函館管下近來狼熊田畝ヲ暴シ人馬ヲ害ス因テ鳥獸獵規則第二條ニ依テ防禦ノ方法ヲ設ク

狼熊田畝ヲ暴シ人馬ヲ害スルヲ見認ルキハ其地ノ正副戸長及ヒ村吏ヘ申陳スヘシ正副戸長并村吏其報ヲ聞カハ直チニ銃手ヲ呼集シ驅逐ヲ開陳スヘシ其捕獲スル禽獸ハ其村町協議ニ任スヘシ銃砲ヲ有スル者職獵遊獵規則ノ外ニ發砲スルヲ許スハ特ニ唯此ノ一事ノミ又平生獵ニ發砲シ或鑑札ヲクシテ職獵ヲナス者アルキハ規則ニ依リ處分スヘシ○十年九月二十二日再論ス熊狼ノ人民牛馬田畝ヲ害スルヲ以テ自今獵獲スル者ハ兩耳ヲ添テ官ニ陳スル賞金二圓ヲ賜フヘシト

明治九年九月二十四日管内ニ令ス從來土人毒矢ヲ以テ禽獸ヲ射ル是其生息ニ害アルヲ以テ之ヲ禁止ス然レモ土人ノ舊慣一旦常業ヲ失ヒ疾苦ヲ免レス依テ他ノ新業ニ移ント願フ者ハ之ヲ移シ獵銃ニ換ントスル者ハ之ヲ

貸シ年々收穫ノ鹿皮十分ノ二ヲ以テ稍ク獵銃ノ價直ヲ償還セシメ將來生計ノ途ヲ失ハシメサルヲ要スヘシ但彈藥等ヲ購フニ不便ナル地ハ該分署ニ於テ適宜ニ賣與シ且銃器運用等ヲ精密教示スヘシ

明治十年三月十日日本廳管下烏鴉ノ稼穡漁魚ヲ害スルヲ以テ自今人民毒ヲ用スシテ捕獲シ各署へ遞スル者ハ壹頭四錢ヲ給スヘシ又銃殺セント欲スル者ハ姑ク烏鴉銃獵

記注ニ據リ允可スヘシ 根室支廳ハ明治十一年五月三十一日達ス本條ニ同シ

- 一 烏鴉銃獵セント欲スル者ハ管轄ノ分署ニ赴キ准牌ヲ領スヘシ烏鴉銃獵ノ准牌ヲ以テ他ノ禽獸ヲ獵スルヲ禁ス
- 一 十六歳未満者銃器ノ運用ヲ熟知セサル者白痴風癡人事ヲ辨セサル者等ハ銃獵ヲ免サス
- 一 銃器ハ凡テ散彈ヲ用ヒ實丸ヲ發放スルヲ禁ス
- 一 市街村落人家稠密ノ地衆人群集ノ場銃丸ノ達スヘキ人ニ向ヒ家ニ向テ發放スヘカラス
- 一 獵獲スル烏鴉ハ分署或ハ區戸長ニ遞スル者ハ一頭金四錢ヲ給ス違

フ者ハ本年一月太政官布告第十一號改正鳥獸獵規則第十七條ニ依リ處分スヘシ

五月二十二日根室管下花咲郡海馬島海馬折原周藏專獵免許ヲ有シ他人其權利ヲ得サルヨリ獵獲以テ生計ヲ助ルヲ得ス到底一人ニ專許スルハ不公平タルニ由リ爾後獵獲免許ヲ得ル者該島ニ於テ獵獲スルモ拒止スルヲ許サス

九月二十二日日本廳管下熊狼ハ耕地及ヒ牛馬ノ害ヲ爲ス少カラス仍テ自今該獸ヲ捕獲スルモノハ熊狼共ニ一頭金二圓ヲ給スヘシ但獵獲者ハ該獸ノ兩耳ヲ以テ開報スヘシ

函館管下ハ八年十月二十日達ス

明治十一年三月十五日日本廳管下烏鴉ノ巢窟ヲ探リ其卵子ヲ獲ル者モ烏鴉ト同ク一個金四錢ヲ給ス

六月二十一日函館管下去歲九月定ムル所ノ熊狼ヲ捕獲スル者手當金給與ノ額八年十二月二十日狼熊防禦ノ條下ニ併セ記スヲ改メ自今狼一頭金七圓熊一頭金五圓ヲ給シ其皮肉ハ捕者ノ自由ニ任スヘシ兩獸共捕獲スルキハ脚腕ヨリ切斷シ其四足ヲ添へ捕獲ノ地ヲ記シ戸長ノ證印ヲ請ヒ當廳民事課或ハ分署ニ開報スヘシ

十月二十三日函館管下烏鴉銃殺ノ爲メ支廳官員巡查へ鑑札ヲ付與シテ函館山中其他近傍ニ於テ銃殺セシム又十二月十六日烏鴉除害ノ爲メ江差地方在勤ノ警察官吏ニ鑑札ヲ付與シ同地市中近傍ニ於テ銃殺セシム

明治十三年八月二十五日函館管下曩ニ明治十年一月二十三日第十一號公布鳥獸獵規則第二條ニ據リ有害鳥獸銃

殺及ヒ威銃免許ノ手續ヲ定ム

第一項有害鳥獸ヲ除クカ爲メ銃殺及ヒ威銃出願ノ者ハハ郡區役所ヨリ該鑑札ヲ付與スヘシ但本文ノ鑑札ヲ以テ普通ノ鳥獸ヲ銃殺シ又ハ貸借スルヲ禁ス 第二項有害鳥獸ヲ除ク爲メ銃殺及ヒ威銃出願ノ者ハハ郡區役所ヨリ該鑑札ヲ納ムルニ及ハス 第三項有害鳥獸ヲ銃殺及ヒ威銃出願ノ者ハハ郡區役所ヨリ該鑑札ヲ納ムルニ及ハス 第四項有害鳥獸ヲ銃殺及ヒ威銃出願ノ者ハハ郡區役所ヨリ該鑑札ヲ納ムルニ及ハス 第五項有害鳥獸ヲ銃殺及ヒ威銃出願ノ者ハハ郡區役所ヨリ該鑑札ヲ納ムルニ及ハス

明治十四年十一月二十九日函館管下從來田野ニアマツボ

器械ヲ設ケ禽獸ヲ捕ル者アリ其危害ナルヲ以テ自今狼リニ設置スルヲ禁ス若シ猛獸等ノ害アリテ其具ヲ設クル者ハ其場ニ目標ヲ建テ或ハ繩ヲ張り人ヲシテ知り易カラシムヘシ

附録

明治三年正月二十二日熊膽皮ハ左ノ價額ヲ以テ買收スヘシ密賣ヲ爲スヘカラス

熊膽皮買上價額

一大熊 金十圓 中熊 金八圓 小熊 金五圓 金四圓

一雌雄膽皮ノ甲乙ニ從ヒ價額ノ増減アルヘシ

明治三年四月朔日輕物類買上價格ハ從來

ノ通心得ヘシ 從前價格詳ナラス○高橋三平筆記ニ臘臍一頭

算熊膽極上品代米三斗五升許差アリ同皮一枚極上品代米一斗許差アリ狐皮一枚代米一斗四升タケリ一個代銀木綿五尺五寸ノ計量一兩目代銀百文大熊皮一枚勝ト共ニ代銀一貫二百文中熊皮一枚勝ト共ニ代銀一貫文中小熊皮一枚勝ト共ニ代銀八百文北蝦夷大額皮一枚代銀三百四十文中獺皮一枚代銀二百九十文小額皮一枚代銀百五十文大狐皮一枚代銀百三十五文中狐皮一枚代銀百二十一文小狐皮一枚代銀百二十文中小貉皮一枚代銀百十一文

但追テ函館產物懸ニ於テ東西地一般ノ價額ヲ定ムヘシ 鹿附錄明治十三年七月九

鹿獵

明治八年九月三十日膽振日高兩國鹿獵從來ノ方法其宜ヲ

得ス因テ鳥獸獵規則ニ據リ假規則ヲ設ク九年十一月正

則ノ設アリ故ニ畧シテ記セス 根室支廳ニ九年四月十九日假規

則ヲ設ル膽振日高兩國ト同シ而

十一月八日本廳管下曩ニ定ムル所ノ膽振日高兩州方面鹿

獵假規則ハ石狩夕張空知樺戸雨龍四郡ノ地方ニ於テ銃

獵スル者モ該規則ニ據ルヘシ但銃獵期限ハ其年五月一

日ヨリ九月三十日迄トス

明治九年十一月十一日管内鹿獵規則ヲ定ム 鹿ハ北海道物產

ニ其利ヲ失フニ至ラントス故ニ之ヲ保證シ永ク其利ヲ失ハサラシメ

シカ爲メ茲ニ
規則ヲ設ク

- 一 免許鑑札ヲナクシテ鹿獵ヲ爲ス者ハ自今之ヲ禁ス
- 一 鹿獵志願ノ者ハ書式ニ倣ヒ地方廳ヘ請願シ免許鑑札ヲ受クヘシ該
- 一 免許鑑札ハ職獵ノ者ニ限リ之ヲ與フヘシ
- 一 免許鑑札一枚税金二圓五十錢ヲ納ルヘシ舊蝦夷人ニ限リ姑ク征收
- 一 獵者ノ員ハ毎年六百名ヲ限ル滿員ノ後請願スル者ハ免許鑑札ヲ與
- 一 免ス
- 一 免許鑑札ヲ領スル者ト雖モ毒矢ヲ以テ獵殺スルヲ禁ス
- 一 免許鑑札ハ一期限ノミ効アリトス且貸借賣買讓受等ヲ禁ス
- 一 獵業ハ十一月一日ヨリ翌年二月二十八日(閏月ハ二十九日)ヲ以テ一
- 一 期限トシ右期限外ハ出獵ヲ禁ス免許鑑札ハ毎年三月五日ヲ限リ地
- 一 方廳ニ赴キ返納スヘシ
- 一 十六歳未満ノ幼者及ヒ會テ規則ニ違フ者並山林等ノ監守者ヘハ免
- 一 許鑑札ヲ與フヘカラス
- 一 免許鑑札ヲ領スル者ト雖モ人家ヲ距ル五十間内及稼穡場圃禁獵榜
- 一 示ノ地等ニ於テ發砲スヘカラス
- 一 此規則ニ違フ者ハ三圓ヨリ二十圓ニ至ル罰金ヲ科スヘシ
- 一 違犯ノ者ヲ告訴シ事實ニ出ル者ハ罰金ノ半ヲ賞シ告訴ニ屬スル費
- 一 用ハ犯人ヨリ償ハシムヘシ

明治十年九月二十二日本廳管下去歲十一月設ル所ノ鹿獵

規則中該獵期限外ニ鹿肉賣買ヲ許サス但他道ヨリ輸入
スルカ若シクハ該獵免許期限内ニ貯藏スル者ハ此限ニ
アラス

明治十一年六月二十九日管内鹿獵規則中第二第三第四第

七第八第九ノ六條ヲ改正シ第十第十一ノ二條ヲ削除ス

第二條 鹿獵志願者ハ書式(略ス)ニ照準シ地方廳(札幌本廳及ヒ函館根室
兩支廳)云以下之ニ倣フ願書ヲ出シ免許鑑札ヲ受ヘシ 第三條 免許
鑑札ヲ受ルニハ職業ハ一枚金二圓五十錢遊獵ハ一枚金五圓獵稅ヲ納
ムヘシ但舊蝦夷人ノ職業ハ姑ク納稅ニ及ハス 第四條 獵者ノ員ハ年
々札幌本廳管内職業五百名遊獵三十名函館支廳管内職業百名遊獵十
名根室支廳管内職業三百名(内百名)夏獵三十名冬獵遊獵十名(内五名
夏獵五名冬獵)ト定メ滿員ノ後願出ル者ヘハ免許鑑札ヲ與ヘス 第七
條 獵業ハ根室全國并北見國ノ内網走紋別常呂斜里ノ四郡ハ五月一日
ヨリ十月三十一日マテ一期限トシ右期限ノ外ハ出獵ヲ禁ス但書從前ニ同シ
二十九日)マテ一期限トシ右期限ノ外ハ出獵ヲ禁ス但書從前ニ同シ
第八條 免許鑑札ヲ與フヘカラサル者及ヒ銃獵禁制ノ場所ハ鳥獸獵
規則第七條同第八條ノ通タルヘシ 第九條 此規則ヲ犯ス者ノ罰則等
ハ總テ鳥獸獵規則第十四條ヨリ第十七條マテノ通タルヘシ(九月十八
日該規則中第四條ノ内根室支廳管内職業百三十名ノ内夏獵三十名冬

獵百名ト
更正ス

明治十二年一月鹿獵規則中第四條へ但書ヲ追加ス十勝國
并ニ膽振國勇拂郡植苗村字妮々ヨリ四方へ各四里ハ鹿
種蕃息ノ爲メ該地在籍舊土人ノ外ハ姑ク出獵ヲ許サス
十三年三月五日該規則中第四條但書ノ内
十勝國ノ下へ及ヒ釧路國ノ五字ヲ追加ス

附錄

明治十二年六月三日根室管下釧路地方ノ山村商估至
ラス從來舊土人等鹿皮角販賣ニ便ナラス故ニ價格ノ
當否ヲ論セス漁民等ト米鹽其他ノ物品ニ換フ漁民姦
曲欺罔シ舊土人其害ヲ被ル憫ムヘキノ至リナリ依テ
廣業商會ニ命シ一併ニ買收シ舊土人興産ノ道ヲ立シ
メン爲メ鹿皮角販賣順序ヲ定ム

第一條 釧路全國舊土人收獲スル鹿皮鹿角ハ姑ク大藏省商務局用達 廣業商會へ賣ルヘシ但姑ク舊土人需用ノ物品ト交換賣買スヘシ	第二條 交換物品概目左ノ如シ 米 鹽 酒 燒酎 烟草 木綿 舶來木綿糸 木綿製筒袖衣類 古箸類 山刀 燒粉 菓子 木綿 船來木綿糸 斧 鎌 鋏 針 小豆 黑砂糖 飴 荒粉 菓子 但陣羽織 行器 飾太刀等ノ類從前交換スト雖モ自今廢停スヘシ	第三條 前條物品ハ廣業商會ニ於テ豫テ釧路郡白糠郡等ノ内便宜ノ 地ニ準備シ交換或ハ臨時前貸等ノ處分ヲナスヘシ且一年需用ノ 數豫定シ難シト雖モ鹿皮七千枚生角一萬八千斤落角四萬斤鹿角 四百斤ヲ以テ概算ノ標準トナスヘシ	第四條 鹿角鹿皮需用品授受ノ品位代價ノ算定ハ釧路白糠兩郡ノ内 ニ於テ廣業商會舊土人總代地方戶長會同シテ之ヲ定メ雙方厚岸 分署へ呈スヘシ	第五條 鹿皮及需用物品ノ價格ハ授受ノ前月分函館時價ノ平均(毎月 一日ヨリ五日迄ノ該處物價表ニ就テ平均ス)ヲ得相當ノ計算ヲ以 テ低昂シ翌月中ノ定價トナシ比較シテ授受ヲナシ其數量品目ヲ 開載シ雙方厚岸分署へ呈スヘシ	第六條 鹿皮角賣買ノ時期ハ該年十月ヨリ翌年四月ニ至ルヘシ	第七條 前各條ノ順序雙方履行シカタクキ者アラハ必ス前年ニ於テ其 旨趣ヲ厚岸分署へ開申スヘシ
--	--	--	---	--	------------------------------	--

明治十三年七月九日本廳管下十勝國舊土人收獲ノ產

物販賣ノ方法其當ヲ得ス將來獨立産業ノ途立テ難キ
ニ因リ今回該業保護ノ爲メ海産物及ヒ鹿角皮等ノ販
賣方都テ廣業商會ニ委托セリ仍テ産物類ハ一切他ニ
販賣スヘカラス

臘虎獵

明治六年四月十七日千島國振別出張所申ス臘虎皮買上代
金ハ從來些少ノ價格ヲ以テ買上土人共ヘハ漁場持ヨリ
漁獲會計ノ際諸品ノ定價ヲ以テ賣渡シ來レリ當時臘虎
皮上皮一枚立米八升入二十俵一升定價五十六文中皮十
五俵許下皮ハ其品ニ因リ差アリ然ルニ内地ノ米ヲ運漕
シ一升五十六文ノ計算ヲ以テ土人ニ賣ル甚タ廉ニ失ス
故ニ漁場持困却スル所以ナリ然ル片ハ自然漁場持ニテ

迷惑ノ項モ有之ヘキニ因リ兼テ伺濟ニ據リ相當ノ相場
ヲ立テ従前ノ定價ニ三倍ヲ増シテ代價ヲ下付スヘシ
明治八年十二月十六日風帆船千島丸成リ函館ヨリ根室ニ
來ル臘虎獵ニ供ス

明治十一年十月十九日根室支廳ヘ令ス臘虎皮ハ北海道物
産ノ一ニシテ其利尠トセス然ルニ獵法制限ナクシテ繁
殖ノ法ヲ缺キ自然其種ヲ減シ其利ヲ失ハンヲ恐ル仍
テ條例ヲ定ム

- 第一條 臘虎獵兼密獵防禦ノ爲メ西洋形船一艘擇捉方面ヲ回航セシム
- 第二條 且姑ク千島丸ヲ以テ之ニ充ツ
- 第三條 多クハ撲殺ヲ善トシテ銃殺セサルヲ要ス
- 第四條 獸ノ幼稚ナル者多ハ殺獲スヘカラス
- 第五條 毎年海岸ヲ距ル一里以內ニ於テ獵殺スル員數ハ總計四百頭ヲ
超過スヘカラス
- 第六條 毎年五月ヨリ十一月迄海岸ヲ距ル一里以內ニ於テ獵殺スヘカ
ラス

第六條 人民ノ獵虎ヲ捕獲スルヲ禁止スル地方ニ係ルト雖モ若シ傷病ニ罹リシモノ海岸等へ漂著スルヲ取獲者へハ其皮ノ品位ニ應シ相當ノ代價或ハ物品ヲ給與スヘシ

第七條 濫殺驅逐シテ他年其減耗ヲ致スヘカラス平生注意シ其方法ヲ設クヘシ

第八條 獵獲スルキハ其齒數ヲ檢シ其皮ハ何歳ノ獸タルノ證ト爲スヘシ

第九條 犖尾分婉ノ季節等實際ニ就テ考査スヘシ

第十條 季節ニ依リテ脱毛シ又ハ毛色ヲ變スル等ノ有無實際ニ就テ考査スヘシ

第十一條 銃殺ヲ停メ棒棍及弓箭ヲ以テ獵スルキハ年ニ幾頭ヲ獲ヘキ歟實際ニ就キ調査スヘシ

第十二條 出獵中他日ノ考證トナルヘキ事項詳細記録スヘシ

第十三條 臘虎獵擔任ノ者此條例ヲ遵守スヘシト雖モ其實際得失アリテ更正セントスル者ハ之ヲ具狀スヘシ

十月十九日根室支廳申ス管下擇捉島ニ於テ臘虎獵銃殺ヲ專ニスルヨリ近來國後島ノ内跡彌近傍へ逃避群集スルニ依リ擇捉島ノ順序ニ從ヒ器械等一切全備シ官吏一名ヲ置キ督理セシメ獵夫數名ヲ雇ヒ二ヶ所ニ開設スヘク

且該地ハ擇捉島ト一等ノ海峽ヲ隔テ泊村ヨリ距離殆ト四十里餘航舟稀少ナルニ乘シ密獵船ノ來犯センモ測ルヘカラス聞カ如キハ昨年擇捉近海密獵船數艘アリト依テ速ニ著手シ兼テ密獵ヲ督理セシメント長官之ヲ許ス

獵具

弓 矢 銃 アマクウ

機弩ナリ獸ノ大小ニ因テ矢ノ高下ヲ量リテ設ク〇一説タイマツト稱ス

